

令和7年関川村議会9月（第8回）定例会議会議録（第1号）

○議事日程

令和7年9月11日（木曜日） 午前10時 開会

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 議会運営委員長報告
- 第 3 諸般の報告
- 第 4 一般質問
- 第 5 委員長報告
- 第 6 報告第10号 令和6年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
- 第 7 専決処分の報告について（令和7年度関川村一般会計補正予算（第4号））
- 第 8 認定第 1号 令和6年度関川村各会計の決算認定について
- 第 9 認定第 2号 令和6年度関川村下水道事業会計の決算認定について
- 第10 認定第 3号 令和6年度関川村簡易水道事業会計の決算認定について
- 第11 議案第62号 関川村議会議員及び関川村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する
条例の一部を改正する条例
- 第12 議案第63号 関川村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
- 第13 議案第64号 関川村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
- 第14 議案第65号 下越福祉行政組合規約の変更について
- 第15 議案第66号 村道路線の廃止について
- 第16 議案第67号 村道路線の変更について
- 第17 議案第68号 村道路線の変更について
- 第18 議案第69号 村道路線の変更について
- 第19 議案第70号 令和7年度関川村一般会計補正予算（第5号）
- 第20 議案第71号 令和7年度関川村国民健康保険関川診療所特別会計補正予算（第2号）
- 第21 議案第72号 令和7年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第2号）
- 第22 発委案第7号 関川村議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する
条例
- 第23 請願第 1号 「村内における、不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見
書」の採択を求める請願

○本日の会議に付した事件

- 第 1 会議録署名議員の指名

- 第 2 議会運営委員長報告
- 第 3 諸般の報告
- 第 4 一般質問
- 第 5 委員長報告
- 第 6 報告第 10 号 令和 6 年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
- 第 7 専決処分の報告について（令和 7 年度関川村一般会計補正予算（第 4 号））
- 第 8 認定第 1 号 令和 6 年度関川村各会計の決算認定について
- 第 9 認定第 2 号 令和 6 年度関川村下水道事業会計の決算認定について
- 第 10 認定第 3 号 令和 6 年度関川村簡易水道事業会計の決算認定について
- 第 11 議案第 62 号 関川村議会議員及び関川村村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例
- 第 12 議案第 63 号 関川村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
- 第 13 議案第 64 号 関川村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
- 第 14 議案第 65 号 下越福祉行政組合規約の変更について
- 第 15 議案第 66 号 村道路線の廃止について
- 第 16 議案第 67 号 村道路線の変更について
- 第 17 議案第 68 号 村道路線の変更について
- 第 18 議案第 69 号 村道路線の変更について
- 第 19 議案第 70 号 令和 7 年度関川村一般会計補正予算（第 5 号）
- 第 20 議案第 71 号 令和 7 年度関川村国民健康保険関川診療所特別会計補正予算（第 2 号）
- 第 21 議案第 72 号 令和 7 年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第 2 号）
- 第 22 発案第 7 号 関川村議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
- 第 23 請願第 1 号 「村内における、不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見書」の採択を求める請願

○出席議員（10 名）

1 番	小 澤 仁 君	2 番	加 藤 つや子 君
3 番	川 崎 哲 也 君	4 番	近 敬 志 君
5 番	近 壽 太 郎 君	6 番	加 藤 和 泰 君
7 番	高 橋 正 之 君	8 番	菅 原 修 君
9 番	平 田 広 君	10 番	鈴 木 紀 夫 君

○欠席委員（なし）

○地方自治法第121条の規定により出席した者

村 長	加 藤 弘 君
教 育 長	津 野 庄 一 郎 君
政 策 監	野 本 誠 君
総 務 課 長	渡 邊 浩 一 君
地域政策課長	米 野 哲 弘 君
脱炭素推進室長	大 島 祐 治 君
住民税務課長	渡 辺 一 洋 君
健康福祉課長	田 村 清 洋 君
健康福祉課参事	須 貝 博 子 君
農 林 課 長	富 樫 吉 栄 君
建 設 課 長	渡 邊 隆 久 君
教 育 課 長	熊 谷 吉 則 君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	河 内 信 幸
議会事務局主幹	小 池 由 美 子

午前１０時００分 開 会

○議長（小澤 仁君） おはようございます。

ただいまの出席議員は10名です。定足数に達していますので、これより令和7年9月（第8回）関川村議会定例会議を開会します。

これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりです。

議事進行によりしくご協力をお願いします。

例規集等の閲覧のため、議員及び執行部の皆さんにのみ、議場におけるタブレット端末等の使用を許可します。

日程第1、会議録署名議員の指名

○議長（小澤 仁君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本定例会議の会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって、3番、川崎哲也さん、4番、近 敬志さんを指名します。

日程第2、議会運営委員長報告

○議長（小澤 仁君） 日程第2、議会運営委員長の報告を行います。

議会運営委員長から本定例会議の会議日程（案）について報告をお願いします。議会運営委員長。

○議会運営委員長（近 壽太郎君） おはようございます。

本定例会議の会議日程及び議案の取扱い等について申し上げます。

去る9月2日、令和7年9月第8回定例会議の運営について、役場第2会議室において、委員及び議会事務局職員出席の下、議会運営委員会を開催しました。

その協議の結果について報告します。

最初に、会議日程については、お手元に配付の会議日程表（案）のとおりです。

まず、本日の会議では、会議日程の決定後、諸般の報告、一般質問、委員長報告を行い、その後、各議案の上程を行います。終了後、総務厚生常任委員会を開催し、付託議件の審査を行います。

なお、令和6年度の各会計の決算認定につきましては、決算審査特別委員会を設置して審議を行います。

常任委員会終了後から12日金曜日及び16日火曜日は、決算審査特別委員会を開催し、各会計の付託議案の審査を行います。

決算審査終了後、特別委員会を開催し、付託議案の調査を行います。

17日水曜日から19日金曜日までと、22日月曜日と24日水曜日及び25日木曜日は議案調整日及び委員長の事務整理日とします。

26日金曜日は、午前11時から常任委員会及び特別委員会を開催し、付託事件の調査を行います。午後3時から本会議を開催し、各委員長から委員会審査の報告を受けた後、採決を行います。

なお、追加議案が上程された場合は、当日審議をし、即決とします。

次に、議案等の取扱いについて申し上げます。

報告第10号の令和6年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告と、報告第11号の専決処分の報告案件の2件は、それぞれ単独上程し、報告を求め、質疑を行います。

認定第1号から認定第3号までは、令和6年度水道事業会計並びに簡易水道事業会計の決算認定案件です。一括上程し、決算特別委員会を設置し、これに付託します。

議案第62号から議案第72号までの議案は、全て単独上程とします。

議案第62号から議案第64号までの条例の一部改正案件、議案第65号の規約変更案件、議案第66号から議案第69号までの村道の廃止・変更案件、議案第70号から議案第72号までの令和7年度各会計の補正予算案件は、それぞれ提案理由の説明を求め、質疑・討論・採決を行います。

一般質問の通告は、8月25日正午で締切り、4名の方が本定例会議において質問を行います。

次に、請願・陳情につきましては、お手元に配付の請願・陳情文書表のとおりです。

陳情については、所管の総務厚生常任委員会において審査をお願いします。

最後に、議員派遣につきましては、本定例会議後、派遣が必要なものは、9月26日に議長提案とします。

以上で報告を終わります。

○議長（小澤 仁君） ただいまの委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 委員長、ご苦労さまでした。

お諮りします。本定例会議の会議日程は、議会運営委員長報告のとおりとしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。したがって、本定例会議の会議日程は、お手元に配付の会議日程表（案）のとおり決定しました。

日程第3、諸般の報告

○議長（小澤 仁君） 日程第3、諸般の報告を行います。

本定例会議までに受理した陳情等は、お手元に配付しました文書表のとおり所管の常任委員会に

付託しましたので報告します。

地方自治法第235条の2第3項の規定により、令和7年7月分の例月出納検査結果報告書が提出されています。議員控室に保管していますのでご覧ください。

以上で諸般の報告を終わります。

村長から、定例会議開会に当たり、挨拶の申出がありました。これを許可します。村長。

○村長（加藤 弘君） おはようございます。

議員の皆様には、大変御多用のところ令和7年関川村議会9月定例会にお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

今年の大したもん蛇まつりは、新潟、山形、両県と米坂線沿線自治体による米坂線復活絆まつりとの同時開催ということもありまして、例年にも増して大勢の観客を迎えた中での開催となりました。また、今年が巳年ということもあってか、この祭りが全国放送でニュースとして取上げられ、関川村を全国に発信する機会となりました。

ご心配をかけております米坂線の今後につきましては、これまで関係者で協議を進めているところではありますが、具体的な方向性を見いだすまでには至っておりません。私としては、地域公共交通の担い手であるJR東日本のさらなる主体的、積極的な提案等を期待しつつ、県や沿線自治体とも協議をしながら解決策を探っていきたいと考えているところでございます。

さて、本定例会議にご提案いたしますのは、財政判断比率等報告案件1件、専決処分の報告案件1件、決算の認定案件3件、条例の一部改正案件3件、下越福祉行政組合の規約変更案件1件、村道路線の廃止・変更案件4件、補正予算案3件、以上16件であります。

追って上程の際に詳細にご説明を申し上げますので、慎重審議の上、ご賛同いただきますようお願いいたします。

○議長（小澤 仁君） 以上で村長の挨拶を終わります。

日程第4、一般質問

○議長（小澤 仁君） 日程第4、一般質問を行います。

質問の通告者は4名です。発言を許可します。

初めに、9番、平田 広さん。最初の質問を許可します。

○9番（平田 広君） 9番の平田 広です。

私は、3点について質問させていただきます。

1点目、村の農業を守る政策は。

日本の主食である米不足から価格高騰に発展し、国は備蓄米の放出や外国米の輸入、米の増産を打ち出すなど、米を巡る環境変化は、見極めにくい状況にあります。

今のところ、米価の高騰は、生産者にとっては歓迎すべきところだと思います。しかしながら、担い手不足は深刻です。今まで頑張ってきた団塊世代も高齢化し、徐々にリタイア、ギブアップの状況です。この状況を変えるには、作業しやすいように、農地の区画整理や集約によるコスト削減、そして若い担い手の確保が急務です。

希望の持てる産業でなければ、人は入ってきません。どこの市町村も同じような悩みを抱えています。先般津南町が、地域で農地を守る意識醸成として、認定農業者が水田のあぜ、畦畔ですけれども、草刈りを事業者らに委託した場合、草刈り費用を補助する制度を新設しました。

制度の背景にあるのは、農家数の減少や農地の集約、大規模化を見越したものだそうです。

そこで、次のことについて、村長の考えを伺います。

①日本の米を取り巻く環境変化をどのように見ているか。

②村の基幹産業である稲作を守る政策は。

③津南町のような村独自の支援は考えられないか。

よろしくお願いします。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 平田議員のご質問に、順次お答えをいたします。

初めに、農業の米を取り巻く環境変化についてでございます。

米を取り巻く環境は常に変化し、また時に大きく変化してまいりました。かつての食糧管理制度から輸入自由化を経て、米余りを背景に減反政策が始まり、国による生産調整が長期にわたって続いてまいりました。平成30年には減反政策が廃止され、生産者自らの経営判断により、需要に応じた生産販売が行われるようになりました。そして、コロナ禍での需要の急激な落ち込みの一方で、気候の変化、災害、さらにはインバウンド需要などによって米の不足感が生じ、令和の米騒動が起きております。

米価の変化も著しく燃料や資機材などの高騰の中で、長年低迷してきた米価が大きく上昇しており、農業経営を安定させる好材料と期待をしております。その一方で、急激な価格の高騰は、消費者の米離れを招く恐れもあり、次年度以降、米価がまた下落する恐れもあります。

いずれにしても消費者、生産者双方が納得できる価格帯で米価が安定して維持されることとなれば、生産者の意欲も高まり、農家経営の安定、担い手不足の解消といった好循環を生むのではないかと期待をしており、今後の国の農政改革を見極めたいと思っております。

次に、村の基幹産業である稲作を守る政策についてでございます。

村では、再生協議会の事務局を国県との連携の下、作物の作付や需要動向の把握、経営所得安定対策等の交付事務を行い生産者の経営の安定に努めております。

また、中山間、多面的といった日本型直接支払交付金事業に取り組み、農家所得の維持、協働活

動を通じた地域の一体的な取組による地域農業を守る体制づくりにも取り組んでおります。

さらに、これまで一部地域でしか行われていなかったヘリコプターによる共同防除を民間企業と連携して、今では全村を対象にしたドローン防除の実施に取り組んでおり、農作業負担の軽減を図ることで、離農者の抑制にも努めているところでございます。

3点目の、津南町のような独自支援策についてでございますが、津南町では、離農者が耕作していた農地の新たな担い手が決まりづらいという点に着目し、農作業に対する補助制度を創設されるようであります。

村としては、溝畔や道路、路肩等の草刈り費用が、現在取り組んでおります中山間地域直接支払制度や多面的機能直接支払制度で交付金の対象となっているため、新たに草刈り作業に対する独自の補助制度を設ける考えはございません。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。平田さん。

○9番（平田 広君） ありがとうございます。

まず、①ですけれども、日本の米を取り巻く環境変化の関係ですが、村長がおっしゃるとおりなんですけれども、米不足は長年続けてきた減反政策、国の見通しの甘さから来ていると私は思っております。増産するにしても、簡単ではございません。一度減反すると、元に戻すのは大変です。

米も、5キロで4,300円ぐらいになったり、あるいは備蓄米ということで5キロ2,000円、あるいは仮渡金、これも去年は1万7,000円だと思ったんですけれども、60キロが2万3,000円、次に2万6,000円、今度は3万円というような額が出てきました。価格の高騰は、生産者にとっては歓迎すべきことなんですけれども、反面、今までが安すぎたというふうに思っております。

国は、増産を求めるなら明確な支援策を整備すべきだと私は思うんですけれども、なかなかその後出てこないというような状況なんです。私、米価、価格の関係と、農家の支援はまた別であり、2つの問題があるというふうに考えているのですけれども、農家の経営保護ということで、両方に対応が必要ではないかと思っておりますが、村の基幹産業である農家ですので、弱い立場の農家の皆さんでして、村の農地、荒廃しないためにも、できるよう保護し、支援していくことは当然村の責務であると思いますが、このことについて村長のお考えをお伺いします。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 今もう国でも、今後の農業の在り方をいろいろ検討しているようであります。

前々から言われていますけれども、農家が経営として成り立つためにどうすべきか。今、例えば圃場整備をもっと拡大しようという動きもありますし、経営体自身を強化して、儲かる農業をしていくという取組が多分今後進んでいくんだと思いますが、一方で、関川村のような平坦で広範な農地がある場所でないところの、要は取り残される地域の農業をどうするか。あるいは農業集落維持のための対応をどうするかという部分もございます。

最近の国のお話を聞いていますと、農業の経営としての議論はあるんですけども、中山間地をいかに守るかというようなことについて、私の勉強不足かも知れませんが、なかなか新たな施策が耳に入ってこないということなので、その辺よく周知していきたいと思いますし、村として当然そういうところを維持しなければなりません、今日も新潟日報に載っておりましたが、黒川地域で、14集落でしょうか、共同で団体をつくって、農地の保全、地域活性化、集落生活支援というようなものをどうしていくかという組織がつくり上げられましたけれども、それぞれの地域の中で、協働してどんな取組をしていきこの地域を維持するのかということができるような仕組みをこれから村も考えていかなければならないと。全てが全て村が金銭的に支援してということでは、維持ができないと思いますので、その地域の方、そしてその地域を応援してくれる方々を含めて、全体をどうやって地域維持していくかと、そういう施策をこれからも考えていかなければならないと考えています。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。平田さん。

○9番（平田 広君） ありがとうございました。

中には、農家は今米価が高騰して潤っているので、特にあるいは今までどおりでいいと言う人もいるのですが、米の高騰、これによって、今までは日本の米プラスミニマム・アクセス米は外国から入ってくる米ですが、これが77万トンありますけれども、そのほかに、その枠外に米が大分入ってきているのです。韓国であれば、去年よりも40倍も多く入ってきていると。韓国で余った米が日本に来ているのです。それは枠外だから、今度大きな関税がかかるわけです。それでも、今の高騰している米であれば十分間に合うと。10キロで3,330円だそうです。それを5キロです。半分です。そこにプラス関税が1キロ当たり341円かかるそうですけれども、足しても、今の日本の米の価格よりも安いということで、これからまだまだ増えてくると思います。そんな心配もありまして質問をさせていただきました。

次に入らせていただきます。

村の基幹産業である稲作を守る政策はということで、さっき圃場整備と区画整理というようなこと、村長のご答弁もありました。これについて、整理できない小さい田んぼも借手もないような状況です。そういうところは順々に減反が始まるわけですが、そこで、大規模な区画整理、それをもっともっと早く進めることはできないかということなんですけれども。その辺については今の現状等をまず圃場整備の現状と今後の関係もお話いただければありがたいです。お願いします。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご質問でございますが、圃場整備の関係ですが、近年では県営中山間地域総合整備事業というものに取り組みまして、幾地、鯉江沢、橋場、大島、朴坂のところで圃場整備をしてきております。

現在、女川の圃場整備、面工事は終わりましたがけれども、もう、そろそろ完了というようなところでございます。

これからのところなんですけれども、鮎谷改善地区というところと大島・沢田地区の、大島から橋場の間です。そういったところで計画がされておまして、現状では今手いっぱいというか、国県の予算もなかなかつきづらいところでございますので、今のところはこれをまず行ってからということになろうかと思えます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 確かに、まだ女川の方に係っているということは聞いていました。

時間がかかり過ぎるというふうに感じるんです。計画に3年かかって、工事を実施し、五、六年でできて、またその後始末ですか。整理にまた3年もかかるというような状況なんです。その辺のところ、工事は続けて実施できるように、最後の後片づけの関係とか当初の計画、それらをもっと詰めていけるような感じにしてもらいたいというふうに思うんですけれども。そのことを土地改良区にも話をしたら、もう今は職員が5人しかいおらず、もう手いっぱいだと。1か所実施するためには10年かかるというようなことをおっしゃっていましたがけれども、その辺、村の方で支援ができないものか。その辺をお伺いします。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 土地改良区への支援ということでございますけれども、今圃場整備自体の採択が、今現状ではなかなか新規のところは厳しい状況になっております。

計画から実施までの間で時間がかかり過ぎるというご指摘でございますけれども、2割園芸が条件になったりとか、様々そういったところでの営農部分での調整など、必要になってきております。計画を十分にしながら、なるべく間が開かないようにといたしますか、実施できるように今調整をしております。

土地改良区の方の支援がという話がありますけれども、農林課の方でもそういったいろいろな面で、圃場整備のところで一緒になって進めさせていただいておりますので、そういった支援をさせていただきたいと思えます。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 大変、今はそういうふうに協力していくというのはいいことなんですけれども、もうひとつ何か変更が出てきていると、計画がです。今までは5%、事務負担を出せば圃場整備ができてきたんですけども、今度は国が100%、100%じゃなくて、個人で出す分を国が持って実施しますという、その制度に乗ると、県も出す分が幾ら減ってくるし、村の出し分も減ってくるし、個人で出さなければならない部分については国が持つという、いろいろ条件も悪いようなんです。

れども、みんなそっちの方に変更させられたというようなことで、これもやはり一つの事業にみんな集中するわけです。それで進まないというふうに思うんですけども。

県もお金がないということで、みんなそっちの方に行くようにも進めているということも聞いています。その辺はどういうふうになっていますか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまの100%というか負担なしでというところ、機構関連の圃場整備だと思うんですけども、鮎谷改善地区と大島沢田地区、こちらの方もその事業で実施する予定で申請を考えております。

事業を変えられたというようなところもあるかもしれませんが、それは予算をつかむ、予算を獲得するための手法でございまして、特に問題はないというふうに考えております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 受益者負担がなしになるのはいいんですけども、そのための一つの事業が様々あるわけだけでも、その事業にみんな集中していくということで、それも遅れている原因の一つではないかというふうに思っているのですけれども、いかがでしょう。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 一つの事業に集中するというところもあるかもしれませんが、県の事業の予算配分、そういったところを含めて検討した結果でございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） できるだけ早く進むようにひとつお願いします。

それでは、③の津南町のような村独自の支援は考えられないかということで、村長の答弁にありましたとおりなんですけれども、今津南町では高齢化のほか、高齢者未満の人でも高額な農業機械の更新ができず離農する人もいるということで、年齢にかかわらず、体力があり、草刈りぐらいなら協力が可能な離農者には協力を求めるということで補助しているということなんです。津南町では1時間当たり1,500円を出していると。多分その1,500円の中には、私の独自の考えですけども、人夫賃金プラス機械の経費とか、油とか、そういうのも入っての単価だと思うんですけども、そういうのを予算化したというふうに今聞いています。

それと、南魚沼市では、隣の魚沼市に倣って、農業用機械の買換えに補助金を出すことにしたそうです。ほかの市町村を参考に、当村でもそのような農家の支援、保護について検討してもらいたいと思うんですけども、いかがでしょう。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） この農家を取り巻く情勢の中で、今ほどの部分は財政支援という、金を支援するというお話ですけども、今現状を見ますと、米価がかなり上がってきていて、いい状況だと。

問題は担い手をどうするかということだと私は思っていて、例えば先ほど胎内市の場合ですと、新潟食料農業大学の学生が草刈りを協力してくれるというような話もありますし、要は担い手をどうするような形にしていくかと考えたときに、お金で支援するというよりも、その仕組みをどういうような形でつくっていくかというのが大事なかと思っています。様々な市町村等でも見ながら、要は人材確保のための施策というのはこれからも考えていかなければならないと考えています。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） その南魚沼市も、要はまだ若いんだけど、高額なトラクターとかコンバインとか、何百万円とするわけです。それらが、もう機械が駄目になったら辞めようという人たちがいるので、それで、そういうところに今1割だか2割だか、その辺補助するという格好になったみたいなんです。米については、今後まだよその状況を見ながら検討していただければいいと思うんですけども、そんなことでよろしく願います。

1点目終わりました、2点目の……

○議長（小澤 仁君） 2点目の質問を許可します。

○9番（平田 広君） 2点目の集落支援員制度のさらなる活用ということですが、集落支援員制度の要件としては、年齢制限ありません。高齢になってもできることだと思うんですけども、ないし、村内の人間でなければ駄目だとかも規定は、いなければよそから来てもらってもいいですという格好ですし……

○議長（小澤 仁君） 平田さん、通告してください、最初に。2点目の質問の通告をしてください。今中に入っていましたんで、まだ通告いただいていませんから、2点目の集落支援員制度のさらなる活用というところを通告してください。

○9番（平田 広君） 2点目、再質問させていただきます。

○議長（小澤 仁君） いや、通告してください。まだ通告されていませんから。

○9番（平田 広君） 2点目、集落支援員制度のさらなる活用、再質問させていただきます。

○議長（小澤 仁君） いやいや、通告してください。通告。

○9番（平田 広君） 2点目、集落支援員制度のさらなる活用を。

国の制度としては、地域おこし協力隊、集落支援員、地域活性化起業人の3つの制度があります。当村は、総体的にこの制度を上手に使っていると私は思っております。地域おこし協定も三、四人いますし、集落支援員も3人いますし、地域活性化起業人もおりますので、そんなふうに思っているんですけども。そんな中で、当村に集落支援員3名はいますが、これに満足せず、この制度をもっと利用して村の活性化をつなげられないものか。村長の考えを伺います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 集落支援員制度は、地域の活動を支えたり、地域活動と担い手不足を補うこ

とができる制度でございます。

議員がご指摘のとおり、現在村では3名の集落支援員が活動をしており、空き家対策や移住定住の促進、健康増進事業にそれぞれ取り組んでいただいております。

制度をもっと利用し、村の活性化につなげられないかというご意見には、私も同じ考えであります。集落支援員制度は、担い手不足や集落機能の維持について苦慮されている集落が多い実態がある中で、集落やコミュニティで活用することで課題解決につながることを考えられますので、村としては、この制度についてしっかり周知をしてまいりたいと考えています。

導入に当たっては、まずは集落やコミュニティなど受入れ母体にこの制度をご理解いただき、どんな支援を求めるのか。活用方法や受入れ体制などについてしっかり検討いただきたいと思っております。

村としましては、集落支援員制度を有効に活用したいと考えておりますので、ご相談いただければ、村としても一緒に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 前向きな回答、ありがとうございます。

集落支援員制度の関係ですけれども、私もテレビなどを見て感じていたんですけれども、今言う、例えば土地改良区は、5人でも職員がこれでは精いっぱいだというようなところに集落支援員制度を利用し、そういう経験ある人を配置するとか、村から職員を派遣したり。猟友会にしてみれば今回の熊の出没で大変です。集落支援員は専任と兼任がありますので、専任でなくても兼任で、金額にすれば、専任ですと350万円、国はそれを今570万円ぐらいに上げようとしているようですけれども。兼任ですと、ほかの仕事をしながらの兼任ですので40万円というようなことで、猟友会もあるし、林政関係も何かしに行くようには支援でき、使えるんじゃないかと思ったり、あと自然環境管理公社でも使えるんじゃないかと思ったり。あと、よその例を見ますと福祉活動、高齢者の見守りに使っているというところが多いようです。あと、インバウンドの関係で、外国人との対応に活用しているというところもあるようです。あと、直売所への代理出荷というようなことで、高齢化になっても、畑は何とかできるけれども、車で運転して持っていけないというのを、代理でもって出荷していくというのもあるようです。

商工会も人数足りないということで、前に補助金を、今は680万円ですけれども、そこに上げているように、そういうものもありますし、学校でもかなり使っている。テレビによると、校長先生の夫婦が退職して、今は学校の方に集落支援員として勤めているというようなことがありました。

国もこれを増やそうと、今までは2,000校の学校で集落支援員制度を利用し、集落支援員を2.5倍に増やそうというようなことで、5,000校に配置しようという計画があるようです。この前も新聞に出ていました。

不登校だけでなく、教育委員会であれば部活動、あるいは兼任でスポーツ少年団、緑の少年団、あるいは公民館の主事なんていうのも出ていたんですけれども、これどういう意味なのかと思っていたのですが、そこに集落支援員として送るということは、職員になるのではないかと自分では思い至ったのですけれども、そんなのもありました。渡邊邸もそうですけれども、これ結構使えるのだと思って見ていたのですけれども。

村であれば、職員も、私ら議員もそうですけれども、パートの皆さん、みんな村の自腹です。自己資金です。それらを、こういう制度を使ってやれば、国から特別交付税で、後でお金が入ってくる。それだけ幅広く活用していけるんですけれども、その辺について、そういう考えはないか伺います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 集落支援員制度というのは、私たち財政的に厳しい市町村にとっては大変いい制度で、財政的な面もありますし、もう一つは、外部から呼ぶことによって、我々の知り得ない知識、知見のある方を入れることができるという、そういう意味では両面ともすごくメリットある制度だと思っています。

今回は健康支援だとか、先ほど言いました方で、3名導入いたしました、大変実は成果が上がっている状況でございますし、では何でも使えるかという、ある程度やはり集落支援員制度っていうものの検査もありますし、その制度の趣旨にのっとっているかどうかというのはチェックが入りますから、何でもいい訳じゃいきませんけれども、できるんですしたら役場の職員も皆さん集落支援になれば給料払わなくて済むわけですから、そんないいことはありませんけれども、そんなことはできませんし。

ただ、おっしゃったとおり、様々な知恵、工夫を出すことによって、我々が足らざるころの知見を補えるという意味においても、大変重要だと思っています。ご指摘の渡邊邸もそうかもしれませんし、様々なところで、どんな形で使えるのか、新年度に向けて、集落支援員制度の拡大について十分検討していきたいと考えています。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 村のためですので、よろしくお願いします。

それでは、3番の……

○議長（小澤 仁君） 2番目を終わってください。

○9番（平田 広君） 2番目を終わります。

○議長（小澤 仁君） 3番目の質問を許可します。

○9番（平田 広君） 3番の、加藤村政2期約8年の検証と3期目はということでございます。

加藤村長は、就任以来、土沢地内の木質バイオマス発電やわかぶな高原スキー場からの撤退、あ

るいはせきかわ道の駅の再整備、令和4年の豪雨災害復旧事業、脱炭素事業等、2期約8年にわたって難しい事業に関川村のために、献身的に取り組んでられました。

そこで、2期約8年の村政を振り返って自己検証した場合、100点満点としたら何点くらいになると思うか伺います。

また、3期目も出馬していただけるものと思っておりますが、公式の場での出馬表明がされていません。ぜひ、この場で3期目の出馬表明をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） まず、加藤村政2期8年の取組についての自己検証、評価についてでございますが、私は令和3年12月の2期目の出馬に当たりまして、村の未来、皆様とともにという考えの下、5つの重点政策を掲げました。具体的には、健康寿命の延伸と健康づくりの推進。2つ目が、誰もが住みやすい村づくりの推進。3番目に、村の魅力づくりと交流・定住人口の拡大。4つ目に、豊かな自然環境と地域資源を生かした産業興し。5つ目に、脱炭素社会・環境に優しい社会の実現であります。

一方で、翌年の令和4年8月には、ご承知のとおり記録的な豪雨が発生し、高田地区、湯沢地区をはじめ多くの住民が被災し、公共施設なども被害を受けたことから、災害復旧と災害に強い村づくりをまずは最優先課題に取り組んできたところでございます。

私としましては、この2期8年間、喫緊の課題の解決と村政の発展のために全力を投じてまいりましたが、まだまだ注力が必要な分野、やり足りない取組もございます。

お尋ねの村政8年間に対する評価でございますが、自己評価としては、具体的に点数をつけることはなかなか難しいと思っています。これまでの取組に対する評価については村の皆様にお任せをしたいと思っています。

次に、3選の出馬についてのご質問でございますが、村長には当然、村政発展の強い思いが必要ですが、それとともに、それを実現するための気力であるとか体力と、そういうことも必要でございます。70歳を超えた今、この先、私が村長として重責を担えるかどうかなど、様々な思いが頭を巡りましたが、一方で、被災した米坂線の今後の扱いをどうするか、着手し始めた脱炭素やデジタルを活用した住みやすい村づくり、今年着手しますインバウンドの推進と村内経済の活性化、これらは私の責任として、一定の目途をつけなければならないと考えております。

そうした思いから、村民の皆様から負託を頂けますなら、次期4年以内にこれらの施策、事業を前に進め、加藤村政の総仕上げをしたいと思っているところでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。

平田さん、ちょっと待ってください。

暫時休憩します。

午前１０時４６分 休 憩

午前１０時４６分 再 開

○議長（小澤 仁君） 休憩を閉じ、会議を再開します。

９番、平田さん。もう一回発言あるでしょう。

○９番（平田 広君） この１つ目の方ですけれども、自分の自己評価ということなんですが、これ私、前大六村長のときに、３期目のときに同じような質問をさせてもらったんです。同じように、自分のことは自分でできないという答弁で、同じような格好で点数は頂けませんでした。お答え頂けませんでした。それはそれで結構なんですけれども。

３期目の関係について、おとといの新聞ですか。見まして、出てくれるんだというふうには思いました。出馬していただけるということで安心したんですけれども、自分の時間も欲しいというふうに思うでしょうし、また大変だということもあると思います。しかしながら、関川村のために応援させていただきますので、頑張ってくださいと思います。

これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小澤 仁君） 平田 広さんの質問を終わります。

休憩します。１１時まで。

午前１０時４８分 休 憩

午前１１時００分 再 開

○議長（小澤 仁君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

一般質問、順次、２番、高橋正之さん。最初の質問を許可します。

○７番（高橋正之君） ７番、高橋です。

有害鳥獣対策についてお伺いをいたします。

猿やイノシシについては言うまでもありませんが、近年では熊の出没が頻繁化しております。新聞やテレビなどでも報じられているように、危険極まりない状態であります。あちらこちらの集落からは苦情が殺到しています。過去に起きた下関での事故、この事故の二の舞にならぬよう、対策を講じなければならないと考えます。

そこで、次の点について質問をいたします。

１つ目。猿やイノシシが電柵を設置しているにもかかわらず田畑を荒らしているため、パトロールの強化が必要と考えますが、村長の考えをお伺いいたします。

２つ目。天候のせいなのか、今年も山の木の实などが不作のために、熊の出没が多発しています。この秋には民家の近くまで来るのではないかと、不安が増しております。村民の安全安心のために

も、パトロールの強化が必要と考えます。村長の考えをお伺いいたします。

3点目。ジビエの解体処理場について、どこまで進んでおるのかお伺いをいたします。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 高橋議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、猿やイノシシ対策としてのパトロールの強化についてでございます。

村では、猟友会に委託をして、パトロールを実施していただいています。期間は6月から11月までで、週1回、関谷分会、女川分会、それぞれ計23回ほどパトロールを実施していただいております。パトロールの期間中は毎週パトロールを実施していただいていることから、猟友会の負担が大変大きくなっておるということですので、人員体制の面からも、これ以上の実施はなかなか難しいものだと考えております。

なお、ご指摘の、電気柵を設置しているにもかかわらず猿やイノシシが田畑を荒らしている状況があるというお話でございますけれども、草刈りが不十分であったり、電気柵の抜け道があったりすると、本来の電気柵の機能が発揮できない場合がございますので、いま一度その状況をご確認いただきたいと思いますし、相談頂ければ農林課の方でも必要な助言をさせていただきたいと思っております。

次に、民家近くで出没した熊から村民を守るためのパトロールの強化ということでございます。

熊に関しては、季節あるいは夜昼を問わず、住民から目撃情報が寄せられております。私たちも大変心配をしております。しかし、熊の行動を考えますと、行動範囲も広く、移動スピードも速いことから、常時パトロールすることは現実的ではございません。村では、民家近くで熊の目撃情報があった場合に、警察とも連携をしながらパトロールを実施しているところです。

議員ご指摘のとおり、熊の出没が今後増えることが想定されますので、村民の皆様自身が、まずは熊に遭わない行動をとるということを、村としては引き続き呼びかけてまいりたいと考えています。

3点目の、ジビエについての進捗状況ですけれども、駆除したイノシシなどの肉がジビエとして利活用されるということは、駆除活動を活性化するほかに、ジビエ肉が魅力ある商品になることから、ジビエ事業に取り組むことができないか、これまで数年にわたり猟友会等と話し合いを続けてまいりました。ジビエ事業に取り組む意義は猟友会とも共有しているところであり、現在は、事業主体や具体的な運営方法について協議をしているところでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） それでは、1点目について再質問をさせていただきます。

関谷分会と女川分会があると思うんですが、パトロールの範囲は違うと思うんですが、

班の体制というのはどんなふうになっているのか教えていただきたいと思います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご質問ですが、班の体制ですが、関谷分会では3班、6名で行っております。女川分会については5班、11名で、令和7年度も実施しております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） ありがとうございます。

猟友会から聞いたところなんですけれども、女川と関谷の分会の範囲は確かに違うと思うんですけれども、1回当たりのパトロール、午前中というふうなことでお伺いをしているのですけれども、当然出くわすというか、いるときといないときは当然あるかと思うんですけれども、範囲によって、その3班体制でどんなふうな回り方をしているのか分かりませんが、とにかく、1回というのにかかわらず、午前回ったら午後も回るというような、そんな体制の取り方というのはできないですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） なかなか、今半日ぐらいで実施しているところをさらにもう半日、一日まるとパトロールに当たるということがどうかという話ですけれども、今後その体制についてはまた猟友会とも相談をさせていただきますけれども、今現状では、一日というのはなかなか厳しいところがあります。

ただ、議員ご指摘のとおり、例えば回り切れていないんじゃないかとか、そういったところあるかもしれません。実態についても猟友会と話しをしながら今後の対応につなげていきたいと思えます。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） ありがとうございます。

ちょうどたまたまパトロールに来たとき出くわさないというのもありますけれども、午後からまた出会うというのもありますし、今また法改正で銃の取扱いもちょっと変わったみたいなので、ぜひパトロールの強化をして、並行して駆除もやってもらいたいと思うんですけれども、その辺はいかがでしょう。猟友会との話にはなろうかと思えますけれども、実際にそれやってもらわないと、もう村の人たちもちょっと、あちらこちら集落の人たちも、いや何とかしてもらいたいということのあれがもうしょっちゅう来ているものですから、その辺、少し強化をお願いしたいと思えます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めていますか。高橋さん、答弁を求めていますか。（「はい」の声あり）農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただ今、そうとは言うものの、まだまだパトロール時の駆除が足りてい

ないんじゃないかというご指摘でしたけれども、そのほかに、農地自体は電柵とかで囲ってあるのかどうか。また、囲ってある電柵の設置状況、そういったものの部分で確認が必要かというふうに思います。

先ほど村長の答弁にありますように、ご相談を頂ければ、農林課もしくはその販売業者にも話しをしながらということも可能かと思います。そういったところで、そちらの農地を囲むというところをまず優先する。そして、あと集落内に入ってくるんだという話であれば、集落の軒先に餌となるようなものがないとか、そういったところも含めて話しをさせていただければと思います。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） ありがとうございます。

電気柵は、田畑問わず、みんなあちらこちらで設置しております。とかく畑のものについては、ほとんど電気柵設置されております。それがもう、どこに行ってもちょっと餌がないものですから、電柵されていても、そのあたりにいるんですよ、やはり。だから、やはりパトロールしてちょっとあれしてもらわないと。花火をどんどんどんどん打っても、そのときはちょっと逃げるんですけども、また戻ってくるというようなことで、全然追い払いにはなっていないみたいな感じで、猟友会の方が来てくれると全然違うのではないかというふうに思いますので、ぜひ実施していただきたいと思います。

2番目ですけれども、熊、それこそ頻繁に出ております。今日も、本日も、それこそもう集落の、中に出ております。そんなことで、やはり自分を守ると言っても、もう来て木に登っているというのにもうどうにもならないわけなので、やはりその辺強化してもらわないと。それこそ下関で起きた事故と同じような形で、たまたま今日あたりは朝早くだったのかどうだったのか分かりませんが、朝早くであれば、当然いるなんていうふうには思っていないと思うんですよ。だから、その辺ちょっと強化の方をできないかというふうに考えますが、いま一度答弁をお願いいたします。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 今のお話ではパトロールを熊の出没時に合わせてパトロールを許可できないかという話ですが、9月1日から法律が変わりまして、いろいろ対応が今度できるようになりましたけれども、まずは、そういう目撃情報があった場合には、広報無線等で周知する、そういったものをまず一番に注意喚起をしてからその次に追い払い、並行してになりますけれども、追い払いとかそういったところの体制づくりを強化していきたいというふうに思っております。パトロール自体を何かこう特別に、熊のためにというところはちょっと難しいかと思うんですよ。

今もそうなんですけれども、今年に入って、今日も含めてなんですけれども、20件の目撃情報がありましたけれども、そんな中で、これから連絡というか通報がありましたら、その都度、状況に

合わせた対応、パトロールを含めてしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） 今ほど追い払いというお話でしたけれども、追い払ってもまたどこかしらには出没するわけなので、やはり増えているせいか、さっき言ったように山の木の实がないせいなのか、熊の頭数が増えているのか、駆除しないとやはり再三出る可能性は大だと思うんですね。

だから、もう法も変わったことでありますし、ぜひそうやって、何とかパトロールでその体制をとってもらってということは考えられませんか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） なかなか熊については出没が、大体予想がつくという状態ではなくて、突然出てくるというような状況でございます。それに合わせて、全村を対象にそういったパトロールをするというのはちょっと難しいというふうに思っております。

ただ、そういった意見もあるということで、猟友会ともまた相談をしながら進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。高橋さん。

○7番（高橋正之君） よろしく願いいたします。

3番の、ジビエの解体処理についてなんですけれども、これも長年続いてきています。処理場の場所は、おおむね想定はされていましたか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ジビエの場所については、場所、そういった施設とか含めて、まだ検討段階でございます。

ただ、できればなんですけれども、肉の個体の移動の関係で、半径10キロ以内というのがありますので、効率的にジビエの施設を運営するためには、そういったところで、熊の捕れる場所と処理場がバランスよく配置できるようなところであればいいなというところでお話しを今しているところで、具体的な場所というのはまだ決まっていません。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） それは、共有しているというのは、当然猟友会の方との協議ですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 猟友会と会議を開いております。ただ、猟友会といっても、関谷分会との話です。そこから、どのような形で進められるかなどを考えながら、女川分会の方にもお話しを、声がけをさせていただくようなつもりでございました。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） 大分、もう何年もたってきているので、今年度中にそれ何か決まりそうな雰囲気でしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご質問ですが、確かに長年議論をしてきたところでございますので、そのときにも話しをしていたんですけれども、目標としてになりますが、年内ぐらいに候補地的な、ジビエの建設予定地といいますか、整備する土地について、候補地までは出したいというふうな目標を持って取り組んでおります。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） ぜひ取組を進めていただいて、今年度中の完成をお願いしたいと思います。ありがとうございます。終わります。

○議長（小澤 仁君） 次に、3番、川崎哲也さん。最初の質問を許可します。

○3番（川崎哲也君） 3番、川崎です。

大枠2点、質問させていただきます。

まず1つ目、ごみ屋敷対策について。

家屋の内外に様々なものが堆積し、悪臭や害虫の発生、堆積物の崩落や火災発生の恐れがあるなど、住民のみならず周辺住民や環境、景観に悪影響を及ぼす住居、いわゆるごみ屋敷。全国各地で大きな問題となっており、令和5年に政府が発表した全国実態調査の結果によりますと、全国のごみ屋敷認知件数は5,224件。一方、ごみ屋敷を認知していないと回答している市町村も6割以上あることから、ある民間会社の調査によりますと、実際にはごみ屋敷の件数は認知件数の数倍あり、ごみ屋敷予備軍も相当数あると考えられています。

ごみ屋敷問題の原因は、居住者の健康、精神、経済的な問題に加え、少子高齢化や人間関係の希薄化、経済の停滞など社会的要因も大きく、問題の解決には居住者やその家族、地域住民だけでなく、行政、医療福祉関係者、清掃業者などによる協力体制と継続的働きかけが重要であると考えます。

以上を踏まえまして、以下3点伺います。

1つ目、村内のごみ屋敷の現状（件数や発生場所、居住者の情報など）を村で把握しているか。

2つ目、村内のごみ屋敷問題に対して、どのような対応をしているか。

3つ目、ごみ屋敷問題を考える検討会等の立ち上げを村主導でできないか。

以上、伺います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 川崎議員の質問にお答えいたします。

初めに、村内のいわゆるごみ屋敷の状況についてですが、村内をその状況把握のために巡回しているということはございませんが、地域住民や区長から情報があったものについては把握をしているところです。また、保健師等の訪問などで、物が堆積しているお宅があるということで確認しているケースもございます。

次に、村内のごみ屋敷問題への対応ということですが、地域住民からの情報により把握したものについては、地域住民を交え、当事者と話し合いを行ったり、堆積した物の後片づけをしたりしたケースがあります。また、保健師などが訪問した際、把握したケースにおいては、事態に至った背景を確認しながら片づけを促しているところでございます。

3点目の、ごみ屋敷問題を考える検討会等の立ち上げを村主導でできないかというご質問でございますけれども、いわゆるごみ屋敷問題は、議員がご指摘をされましたとおり、単なるごみを片づけるだけの問題ではなく、住民の生活状況や精神状況、地域や社会との関わりなど、多岐にわたる要因が絡み合っていると思われます。よって、保健師等が訪問した際、片づけを促すケースもあれば、地域ぐるみで対応しなければいけないケースなど様々です。検討会を開いて得た検討結果がすぐ解決につながるような問題ではありませんので、個別案件ごとに必要な対応をしていきたいと考えているところでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 答弁ありがとうございました。

まず、最初の質問の村内のごみ屋敷の状況把握に関しては、地域住民や区長もしくは保健師等の情報提供があったときに把握しているということなんですけれども、村の方で積極的に村内のごみ屋敷の状況を把握しているという感じではないのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） 役場で職員が積極的にパトロールしているということは、ありません。

先ほど村長申し上げましたように、確認、把握という意味では、住民から、区長からの連絡、報告によって把握しているところでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） その地域住民からの報告というのは、自主的な報告ということでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） 住民から直接連絡がある場合もあれば、区長が代表して連絡頂くというケースもありますが、それほど件数は多くありません。

議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 通告のところにも書いたんですけども、このごみ屋敷問題は、令和4年に全国調査が行われていると思うんですけども、その全国調査のときはどういうふうに報告したのでしょうか。その件数とかは。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） 令和4年に調査がありまして、関川村では1件確認しているっていうふうに県に報告しております。それは国の調査でありまして、県から国の方に報告が行っているかと思います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） その全国調査で報告したのは1件ということでしょうか。村内のごみ屋敷。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） 1件で報告しております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） ごみ屋敷っていうものが、定義がまだはっきりしていないところもあると思うんですけども、私の知る限りでは、住民の方に聞いたら、もう少なくとも4件ぐらいはごみ屋敷がありますし、もう見て分かるところにもあると思うので、ちょっと1件というのは現状把握していないんじゃないかということもあると思うんですけども、例えば外から見えなくて、家の中がごみ屋敷になっているっていう話も聞いています。例えばそういうときに、なかなか人に言えないということもあると思うんですけども、本人や家族が。役場の方で、何かそのごみ屋敷の相談窓口みたいなものってあるのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） いわゆるごみ屋敷に関する相談窓口ということでは設けてはおりませんけれども、福祉課であったり、うちの住民環境班の窓口であったり、やはり住民から相談を受ける場合は、そこが窓口となってお話は聞いておるところでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 実際にそういう健康福祉課であったり、そこら辺に相談ってあったことがありますか、これまで。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） 家屋の、お宅の中にごみがたまっているっていうことでの相談は、私が知る限り聞いたことはございません。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） では、その窓口というか相談窓口、専門ではないんでしょうけれども、ある

ということは、それは住民の方に周知されているのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） 何件あるということは、周知はしておりません。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。川崎さん、ちょっと待って。

さっきの質問で、健康福祉課の方にも聞いていたと思うんだけど、それはいい。健康福祉課長、お願いします。

○健康福祉課長（田村清洋君） 今ほどの、相談窓口として件数があつたかというところでございますが、今のところございません。

過去は、ごみという問題ではなくて様々な要因、環境という部分での相談はあると思っておりますが、ごみ屋敷という定義の中での相談は把握してございません。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 相談があつたかというよりも、その相談できる窓口があるということを住民に周知しているのかどうかの質問でした。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） 村の方では福祉、環境に限らず、総合的な窓口として受け付けておりますので、ごみ問題ということで、窓口ということで、今後必要ということであれば、ちょっとその辺も分かりやすく村民に周知できればと思います。

○議長（小澤 仁君） ちょっと待って、今のは答弁かな。川崎さん、今の答弁で大丈夫。繰り返し質問いいですよ、答弁になっていなければ。川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 今現在、ごみ屋敷の問題があつたときに相談できる窓口があるということ、住民の方は知らないということでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） ごみ屋敷の相談窓口というところでは、村では今明確には設けておりませんが、また分かりやすく相談できる体制は整えたいと思っております。

○議長（小澤 仁君） 課長、質問に答えるだけでいいから。課長の話、考えを聞いていないので。しているかしていないかだけ答えてください。

答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） もし、ごみ屋敷問題があるときに相談できる場所があるということ、村民の方にも周知していただければと思います。

次ですが、ちょっとこの再質問の前提として、今回のごみ屋敷の問題に関して、どこか特定の建物とか場所とかそういったことを言っているのではなくて、村内にあるごみ屋敷全体のことについて質問しますので、それをご理解ください。先ほど、報告は1件ということだったのですけれども、

もう何件かありますので。

それと、再質問に当たっては、関川村のごみ散乱防止条例であったり、空き家等適正管理に関する条例も参考にさせていただいております。

それを踏まえてですが、村内に空き家でごみ屋敷、あると思うんですけども、この空き家等適正管理に関する条例を適用して、今現在何か村で動いていることってあるのでしょうか。空き家調査を昨年していると思いますので、ごみ屋敷も把握はしていると思うんですけども。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） 今ほどのご質問ですが、昨年度、村では計画の更新に併せまして、空き家の状況の方を把握しております。ただ、空き家の件数は把握しておりますけれども、実際把握している空き家の中で、いわゆるごみ屋敷と言われるものについては情報も頂いておりませんし、私たち地域政策課の方では把握はしておりません。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 承知しました。

このごみ屋敷、空き家等の適正管理に関する条例で、ごみ屋敷解決ということではまだ動いていないということですね。

このごみ屋敷問題の解決が難しい理由の一つに、法整備ができていないと。ごみ屋敷を直接取り締まる法律がないということも聞いています。それで、村であったり警察、消防とか、役所が介入しづらいというところも聞いていますので。

ただ、一方で、国は全国調査するぐらいですから、ごみ屋敷が全国的な問題になっているということは認識しているとは思うんです。ですので、法整備とか新しい制度の設立とかそういったことを、国とか県に村から要望ってできないものでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 今ほど、ごみ屋敷の話をずっと私もお聞きしていたんですが、2つの側面があって、一つは住宅の中が汚い、入ったら本当にごみになっているって、ごみ屋敷って。ただ、それは全然周りに迷惑をかけていないと。ただごみ、我々が思えばごみというようなものがあるけれども、住んでいる方は、いや、別にここで何でもないと。それをごみ屋敷とは言えないわけですし、例えば民生委員の方あるいは保健師が診断をする中で、例えば公衆衛生上問題があるとか、そういう場合には助言をすることがあるんでしょうけれども、そういうものについては、周りにはご迷惑をかけていないということですから、それを国の報告などでごみ屋敷と言うことは適切でないのかと思っています。

もう一方のごみ屋敷というのは、要は近隣に迷惑をかけると。極めて悪臭がする、あるいは放置

すれば火災になるとかです。あるいはもうこのまま放っておけば家が潰れて近隣の住宅に被害を及ぼすと。こういうものは一目明らかなわけですし、当然区長も把握しておりますし、私も空き家がどうなのかって、集落を回るときにはそれは見えていますから分かるので、そういうごみは、いわゆるごみ屋敷っていうのもありますし、問題は、そういう地域の方にご迷惑をかけるようなごみについてどうするのかということです。

これは、確かに全国的な問題になっていまして、具体的な解決手段というのは、それぞれ個々のケースによって異なるということです。ですから、国があるいは指針をつくる、検討委員会をつくるにしても、もう個別事案ごとに解決しないと対応できない問題だと思っていますので、それについて問題意識は持ちつつも、できるのであれば、例えばいいのは、それに対する村の財政支援とかそういうことがあるかもしれませんが、国に、それについての方向性を出せというのはなかなか難しいのかというのが、私今感じているところです。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） ちょっと最後の財政支援に関してなんですけれども、ごみ撤去とかの補助金とかってあるのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） そういった補助金等は、今のところございません。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） あと、今ほどの村長の答弁の中にあった、やはり個別のケースでごみ屋敷問題というのは解決方法が違うということなんですけれども、そういう意味で、3つ目の質問であった検討会の立ち上げですか、本当にいろいろなケースがあるので、その関係者集まって、このケースはこういうふうに解決したらいいとか、そういうのを実際立ち上げてみたらどうですかという意味だったのですけれども、これは、答弁の中では個別案件に応じて対応していくということなので、この問題、個々のごみ屋敷に対して話合う検討会を立ち上げてくれませんかと言われたら、それは立ち上げるということでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 検討会を私は拒否しているわけではないんですけれども、検討会を開いて前に前進するようなものであれば当然すればいいですし、ただ議論しているだけではあまり意味がないので、したがって、私は個別に話をしたいと、集まろうということで話しすれば、それはもうすなわち検討会だと思っています。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 承知しました。

すみません、ちょっと先ほどの、また国と県に戻るんですけれども、法整備の要望とかまではい

かないまでも、やはり全国で問題になっているわけなので、自治体同士で協力して何かこう情報共有とか、勉強会とまではいかないですけども、何かそういうことっていないのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） 自治体間で集まって協議するという場も、正直県内でもありませんし、近隣でもないというのが今のところでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） これから、例えば村上市とか胎内市も結構あると思うんですけども、ごみ屋敷。ちょっと、近隣の地域で話合ってみようとか、何かそういう動きっていないのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） 個人的に近隣、村上市とか、あと県内の自治体の課長方にごみ屋敷はありますかというような話は、私から実はしたことがあります。情報共有というところでは、連絡を取り合ったケースもあります。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 分かりました。

ちなみに、ごみ屋敷の問題の原因は、やはり高齢者世帯であったり独り暮らしの世帯で、今後、これから自分の家がいつごみ屋敷になるか分からないという話も聞きます。要は、これからごみ屋敷が増えていく可能性の方が大きいと思うんですけども、やはりそれに対して何かこうステップっていうのですか、一つ前に進むような行動をしたほうがいいとは思いますが。

ちなみに、ごみ屋敷解消の事例、私聞いていまして、それは村上市の町屋造りなんですけれども、そこは1990年ぐらいから商店街の衰退とそれから人口減少、あと建物の老朽化だったり、その中で管理不全の空き家とかも増えていった中で、その空き家とかごみ屋敷を解消しようと思ったわけではなく、まちづくりという観点から、結果的にごみ屋敷も解消したようで、20年間の取組の中で、約70件の空き家であったり、そこには倒壊空き家、部分倒壊空き家、そしてごみ屋敷もあったそうですので、ごみ屋敷解消っていう、この焦点を狭めるんじゃなくて、まちづくりの中で、ごみ屋敷解消も一つの手段としてできていけないのかというのを考えています。例えば、観光地にごみ屋敷があるのであれば、これから観光地づくりということで、何かビジョンを持って、村とそれから例えば観光協会とか、あと地域の住民とかも集まって、観光地づくりの集まりみたいなものをつくれなのか、ちょっと確認させてください。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） おっしゃるとおりごみ問題というのは、個々の問題だけじゃなしに、集落あるいは地域の美観を損ねるという問題ですから、そういう取組、もっとこの地域をよくしようという機運が盛り上がれば、村も一緒に考えて、地域をよくしていきたいと思っています。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） ありがとうございます。

実際、村内の観光地、ごみ屋敷のある観光地の方では、住民の方がちょっと、少しずつ動き始めているようですし、ぜひ協力していただければと思います。

あと、先ほど村長がおっしゃられたように、ごみ問題の解決方法は一つじゃなく、個別でいろいろ問題が、解決方法が変わってくるということなので、例えばごみ屋敷解消の、検討会をする、しないはあれですけども、そのメンバーとして、構成員と言えいいのですか。ごみ屋敷専門業者というのもありますので、そういうところにもぜひ相談していただければと思います。もうネットですぐ検索すれば出てくるぐらいごみ屋敷が問題になっているので、ごみ屋敷専門業者というのもすごく、ある会社だと動画も配信していて、登録者も30万人ぐらいいて、動画再生数も700万回とかそういう、人気って言うとなんですけども、いわゆるごみ問題がそれだけ問題になっていますし、そういう業者というのはやはりノウハウもあるそうなんです。やはり、自分の家のごみを、これはごみではないっていう人も中にはいて、そういうのに対応する知識とかも実際あるそうなので、ぜひそういうところにも相談に乗っていただければと思います。

あと、すみません、このごみ問題について、最後なんですけれども、最初に述べたごみ散乱防止条例って、村の、あると思うんですけども、そのごみの取扱いに關しての罰金、罰則というか罰金もあるんですけども、ちなみにこれってごみ屋敷問題に適用できないのでしょうか。15条の2項だそうです。何か5万円の罰金、このごみ散乱条例の罰則はごみ屋敷に適用できないか。お願いします。

○議長（小澤 仁君） 川崎議員、そういった具体的なものの質問をするときに、今後は通告文に入ってもらえると明確な答弁がもらえるので、そのようにお願いしていいですか。

答弁を求めます。住民税務課長。

○住民税務課長（渡辺一洋君） ごみ散乱条例の詳細は、十分承知していないところがありまして、それが適用になるかならないかは、個別のケースで、該当になるかならないかというところで判断することになるのかと思います。

○議長（小澤 仁君） 今十分な通告もなかったもので、今分からなければ分からないという答弁でいいです。

答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 大変失礼しました。

では、これでごみ屋敷の大枠1番の質問を終わらせていただきます。

○議長（小澤 仁君） 2番目の質問を許可します。

○3番（川崎哲也君） 2つ目、鳥獣害対策について。こちらは追跡質問になります。

令和5年12月、第10回定例会議において行った町獣害対策に関する質問への村の答弁に関して、追跡の質問をいたします。

1つ目。熊の出没に適切に対応できるよう、関係機関との協力・連携体制を構築していくようとの私の質問に、答弁では、役場と猟友会、警察との意見交換を積極的に行っていくとのことでしたが、その後、関係機関との意見交換はこれまでどの程度、どのように行っているか。

2つ目。鳥獣害に対し、村として、地域とともに専門家を交えて対策を検討していきたいとの答弁でありました。その後、村ではどのような取組を行っているのか伺います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 有害鳥獣対策について、関係機関との意見交換の状況についてのご質問です。

本年、令和7年9月1日に鳥獣保護管理法が改正され、住宅地での緊急事態時において、村長の許可で熊等の駆除が可能になりました。この法改正を受けまして、村では、ツキノワグマ出没等対応マニュアルを改定し、緊急銃猟も実施できるよう、改めて猟友会や警察、消防、村上保健所、さらに国県道等の道路管理者、公共交通機関等に対して協力を依頼するとともに、村作成の対応マニュアルを共有し、各組織の役割について確認を頂いているところでございます。

今後、このマニュアルの共有を通して、緊急時のそれぞれの役割などについて話し合いを進めたいと考えているところです。

次に、専門家を交えての対策の検討についてですが、村では令和3年に鮎谷集落で、令和5年度に中束集落で、それぞれ専門家による有害鳥獣の出没経路等の調査や講習会を、集落環境診断として開催しております。この取組が一時的なものとならないようにフォローアップを行い、集落診断時に課題となった集落内の未利用果樹の伐採や、餌となるようなものを軒先に置かないなど、集落ぐるみでの対策について、村と一緒に集落内での検討を行っていただいているところでございます。

また、そのほかの集落におきましても、要望をお聞きしながら、専門家を交えた有害鳥獣対策を進めてまいりたいと考えています。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） ありがとうございました。

この鳥獣被害対策に関して、再質問させていただきます。

まず、1つ目なのですが、答弁の中で、関係機関等の意見、関係機関との話し合いということで、村作成の対応マニュアルを共有し、各組織の役割について確認ということなんですけれども、これ実際に関係者で集まって話しをしているのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまの件でございしますが、このマニュアルをもって、それぞれにお

話しをさせていただいておりますけれども、例えば一堂に会してそれぞれの役割を考えるような場面というのはまだ実現できておりませんので、今後、近隣の市町村等も含めて、そういった実際に起きた場合の対応について、一緒に集まって検討する場面をつくっていきたいと思っております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 今後その集まりをつくっていくということなんですけれども、答弁にもありました緊急銃猟制度ですか、これ市街地でも捕獲のために動物に発砲できるという、結構準備っていうのですか、それ必要だと思うので、ぜひ早めに関係者で集まって情報を共有していただきたいと思います。

あと、その緊急銃猟制度なんですけれども、市街地で発砲できるといっても、いろいろな条件があると思うんですけれども、そういう準備というのはもうできているのでしょうか。もう9月から始まっていますけれども。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 今のところ、先ほど申し上げましたとおりマニュアルを作成いたしまして、分かりやすく、出沒があったというところから通報、そしてどのようにして緊急銃猟、そういったところまで持っていくかということが記載されておりますので、一応そのような形で動けるとは思いますが、実際の場面になれば混乱もいろいろあると思います。そういったところで、村側としても検討というか実施訓練、そういったところを含めて実施していかなければいけないというふうに思っております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） この緊急銃猟制度が始まったということも知らない住民の方も多くいらっしゃると思いますので、実際に市街地の中で発砲することもあるということで、住民の方も、実際その中に巻き込まれることもあると思いますので、事前訓練とかしたほうがいいんじゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 確かに住民の方もいろいろな動きをその場面ではしていただくことがあろうかと思います。

どのような形で実現できるかというのは分かりませんが、場面場面でそういった取組ができな
いか検討していきたいと思っております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） ありがとうございます。

続いて、2つ目の質問で、答弁の中では、集落環境診断について述べられていました。これはたしか令和3年に環境診断を行って、集落ぐるみで鳥獣害対策を行うというか、検討するという内容

だと思うんですけども、その後、令和4年、5年と水害等の対策でフォローアップができなかったということなんですけれども、実際、その後フォローアップというのは、具体的にどのようなことをしているのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 集落環境診断の後のどのような取組というところですが、令和3年度に実施した鮎谷集落の方では追加をやりましたけれども、その後、令和3年の集落環境診断で課題となった部分、具体的には集落内の不要果樹の伐採などについて集落で話合っていくようなところを村が入った形で一緒になって動いていくというようなところでフォローアップをさせていただいております。

令和5年度に実施した中束集落については、鮎谷と同じようにフォローアップのお声がけはさせていただいておりますけれども、まだ具体的に鮎谷の集落のような活動につながっていないというようなところがございますので、もっと、もう少し声がけを行って、集落ぐるみの活動につなげていけたらというふうに思っております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 今、その鮎谷集落では、村のフォローアップっていう感じではないんですけども、集落独自に獣害対策を始めて、動物の出没場所であったり、移動経路とか、それから農産物の被害状況とかを地域の皆さん、集落の皆さんで共有して、その記録をとっていると。要は、住民同士で環境診断後の活動、獣害対策の活動を始めたということなんですけれども、それは御存じでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 鮎谷集落の方でそのような取組が始まったというところで、初めてその集落環境診断というところ、モデル的に取り組んだところですので、いよいよ始まったかというところで、大変うれしく思っております。

ただ、同時に、村の方に、こういうところでお手伝いしてとか、そういったところでのお話がなかったというところでちょっと寂しくは思いますけれども、そういう場面で、初めて聞いたところがございますので、今後集落の方に入るときに、区長を通じてになろうかと思いますが、いろいろとご相談なり、もし支障になる、ボトルネックになっているところとかそういったところがあるんであれば、また行政としても携わっていきたいと思いますので、お声がけをさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 協力していただけるということで、ありがとうございます。

ちなみに、ちょっと具体的な協力をお願いになるかもしれませんが、例えば獣害対策として、動物が身を隠しやすい竹やぶであったり、管理されていない杉林ですか、枝打ちとかされていないし間伐もされていなくてももう真っ暗なところなんですけれども、そういうところの整備をする場合、いわゆる緩衝帯整備であったり里山の保全とか、そういうことにチェーンソーとか刈り払い機とかの機材必要だと思うんですけれども、そういうものの購入は、村の方で補助ってできるものでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいま聞かせていただいたところで、ぱっと思いつくところは、森林山村多面的機能発揮対策交付金事業というのがございますので、そういった取組はどうかと思いますが、ただ具体的内容、竹やぶの除去、枝打ちとか間伐とかっていうところ、複数年取り組むような事業でもございますし、山の仕事でございます。危険なところもありますので、研修が必要だとか、いろいろ条件的なところもございますので、また詳しくお聞かせいただければというふうに思います。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） ありがとうございます。

あと、この獣害の根本的な原因なんですけど、やはり森林の荒廃があると思います。私も先週、村とか村上市が主催しているいわふね林業塾に行って、ちょっと勉強させていただきました。本当にいい内容だったと思いますが、そこでやはり森林の役割の中に生物多様性を育むという森林本来の機能が発揮できていれば、わざわざ人里に人間の生活圏に動物がおりてくる必要はないと思うんですけれども、今の林政というのですか、どうしても何か杉を植えて、管理もしなくて、なかなか搬出もしないというか、そのままになっている。手入れされていない状況になっているので、この林業、林政をもう少しちょっと考え直すことってできないのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご質問ですが、今林業を取り巻く環境が厳しくなっております。その中で、森林、林業の活性化というところで、いろいろな補助制度とかございます。議員ご発言の熊とか生物多様性の部分、そのところを、山の機能として整備していくための制度をつくり、そういったところになりますとかなり大きな話になりますけれども、今のところ非常に薄い状況でございます。制度として薄い状況でございますので、先ほど申し上げました交付金事業とかそういったものをいろいろな具体のお話を聞かせていただければ、必ずしも一つの事業で実施するのではなくて、様々な事業を組合せることもあろうかと思います。いろいろな場面で対応できるところが

あるかと思うので、ご相談をしていただければ一緒に検討させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） ありがとうございます。

答弁の中にもありました、専門家を交えて有害鳥獣対策を進めていくということなんですけれども、その専門家というのは、森林整備のための専門家を呼んで勉強会をするとかそういうこともあると思うんですけれども、森林の天然林化というのですか、今は杉を切ったらまたそこに杉を植えると、その杉は使われるかどうか分からないし、管理していくかどうかもちっと分からないまま植えていく。それだと結局森林は、多面的機能は発揮されないと思いますので、例えば実験的に、村有地で天然林化とか進めてみるということもできないでしょうか。そのノウハウは専門家を呼んで一緒にやっていくとか、そういうことってできないものでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 有害鳥獣の専門家だけでなく、それを取り巻く山の専門家、有害鳥獣の被害を軽減するような山の取組というのもしっかりあるかと思っています。そういったところで、専門家の方がいらっしゃれば、ぜひお話を聞かせていただきたいと思います。可能な話だとは思っておりますので、これについてもお話を頂ければ検討していきたいと思っています。

ただ、村有林での実施についても、可能な部分はあろうかと思いますが、経営的な、森林経営計画というのが立てられている部分もございます。いろいろな規制、保安林とかそういったものもあろうかと思っています。その場面というか、その場所によっていろいろあろうかと思っていますので、お話を頂きたいと思っています。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） いろいろと森林整備、鳥獣害対策、前向きな答弁頂きましてありがとうございました。

以上で私の質問を終わります。

○議長（小澤 仁君） 休憩します。13時10分まで。

午後0時02分 休 憩

午後1時10分 再 開

○議長（小澤 仁君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

一般質問の続き、2番、加藤つや子さん。質問を許可します。

○2番（加藤つや子君） 2番、加藤つや子です。

通告に従いまして、私からは、関川村における森林環境譲与税の有効活用について質問をさせていただきます。

令和元年度から始まりました森林環境譲与税でありますけれども、市町村においては森林の整備、それから森林整備を担う人の人材育成、人材の確保、普及啓発、木材の利用の促進や森林整備の促進に充てなければならないとされております。

また、防災面では、森林整備を通じて土砂災害の防止など、観光資源としては、手入れされた森林を活用してエコツーリズムの推進なども期待されているものだと認識しております。

国の令和5年度調査では、市町村でも着実に取組が進んでおります。基金としてプールしている等は、少しずつ聞かれなくなっておるということでございますが、使途別では、約6割が間伐等の森林整備関係で、次に木材利用、普及啓発に活用されているということでございました。

関川村の令和5年度の活用実績はホームページで公表されておりますが、事業総額は1,333万9,000円で、うち森林譲与税は1,317万7,000円でした。令和6年度からは村民1人当たり1,000円、年間1,000円の森林環境税の納税が始まりました。譲与税は、6年度は1,493万4,000円でした。6年度の公表はまだされておられません。また、令和7年度の予算は1,300万円であります。そこで、令和元年から実施されている森林整備について伺いたいと思います。

1つ目、地域の防災や観光資源としての活用や効果はあったかどうか。

2番目、事業の配分基準はあるのか。

3番目、今後この譲与税を使いまして、地域活性化の取組支援として実施する何か具体例はあるのか。

この3つについて質問したいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 加藤議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、地域の防災や観光資源としての活用効果についてでございます。

これまで、森林環境譲与税を財源として、森林経営意向調査や林政アドバイザーの活用、学びの森づくりなどに活用してまいりました。

ご質問の防災や観光での活用につきましては、令和4年8月の豪雨で被災した作業道の復興や、オリパラレガシー材でつくったベンチ等を道の駅に設置したことが挙げられますが、あくまで森林環境税は森林整備及びその促進に関する費用として使用される目的税であり、それ以外の目的で使用はできないことになっております。

次のご質問の事業の配分基準につきましては、設けてはおりません。毎年度、予算編成時に関係団体から次年度の事業計画についてのヒアリングを行い、路線編成を行っているところでございます。

次に、地域活性化の取組支援としての具体例についてでございます。森林環境税の使途は、森林整備や担い手の育成、雇用の確保などに限られておりますので、直接的に地域活性化を目的とした事業への充当はできないことから、これを目的とした具体的な活用は考えておりません。

しかしながら、目的を逸脱しない範囲で、結果的に地域の活性化にもつながる取組があれば使途の対象になり得ますので、限りある財源を有効に活用していきたいと考えております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2番、加藤さん。

○2番（加藤つや子君） ありがとうございます。

今ほど回答頂きましたけれども、目的税であるということは認識しております。

しかしながら、森林組合等の事業所を活用しまして伐採、森林の整備管理をなされている現実があります。それは、流木や土砂くずれなどの被害を防止する、軽減にも役立っていると考えておりまして、それが間接的に防災につながるのではないかと思います。

実際、オリパラレガシー材でつくったベンチも、本当に地域のために、大型遊具のところにもありますし、地域でも活用されております。これ自体が非常に森林整備の効果であると思っております。観光資源としても、実際そこに観光に来た方が座られたりして使っておりますので、そういった見方で考えたときに、ますます事業所支援というのが大事なんではないかと思うんですけれども。

関川村では、一番事業支援としてお願いしているのは、森林組合でしょうか。大きな事業体ではございます。そこに森林の整備、管理をお願いして、なおかつ防災を進めてもらいたいというのが村民の期待でもあると思いますし、観光資源としては、当然のことながら、地域政策課との協働等も考えられると思います。観光対策を横断的に展開することを考えれば、この譲与税を使ってもっと有効的に観光資源としての活用を実施してもらいたいと思うんですが、できないものでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご質問でございますが、事業所支援というところで、まず防災の部分ですが、森林組合との話し合いというのは、毎年予算編成時にはいろいろと調整をしながら対応しておりますので、そのところで聞き取りをしていきたいと思います。

また、観光の方の横断的にということ、課を横断してということでございますけれども、何かそういったようなこの事業に、見方というか、多角的に見て効果のある案件があればぜひ対応させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2番、加藤さん。

○2番（加藤つや子君） ありがとうございます。前向きに検討していただきたいと思います。

それでは、2番の方なんですけれども、その配分基準はないということではございましたが、その時々課題を聞き取りして事業に譲与税を充てているということではございますけれども、その課題を抽出す

るために、民有林の方の村民が持っている森林関係、山関係の人たちの意見というか、そういう話し合いというのは設けられているのでしょうか、教えてください。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 民有林の所有者からの聞き取りというのは、なかなかできていないのが現状でございます。

ただ、森林組合という性質上、民有林の経営、管理なども実施しておりますので、森林組合を通してまた何か聞かせていただければというふうに思っております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2番、加藤つや子さん。

○2番（加藤つや子君） それでは、村民が昨年度から納めているこの税金に関して、多分まだはっきりと分かっている方はそんなにいらっしゃらないんじゃないかと思うんです。そういった点でも、民有林の持ち主から森林組合にそういう意見が伝わって、そして森林組合と役場の方たちが話し合いをして事業を決めていくということになると思うんですけれども、まずそういった点では、村民にもう少し、6年度からの税収ではありますけれども、PRっていうかそういったところをしていったほうが、いろいろと有効活用についてもプラスがあるんじゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 確かに、まだまだそのPR、足りない部分あるかと思います。

ホームページでは毎年、こういうふうに使いましたという実績報告としていただきますけれども、そのほかもうちょっと見えるような形でお知らせして、お示しというか、PRしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2番、加藤さん。

○2番（加藤つや子君） ありがとうございます。

実際ホームページというのは、多くの高齢者が見られるものでもないと思うんです。なかなかホームページを見る人も限られておると思いますので、ほかの媒体を使いまして、そういったものに詳しくない村民向けに周知していただけるとありがたいかと思います。実際お金をとられているけれども、何に使っているんだろうっていうご意見もありますので、ぜひともその辺、周知の方をお願いしたいと思います。

それでは、3番目の地域活性化の取組のなんですけれども、もう一点ありました。事業配分のなんですが、実は調べさせていただいたところ、人材育成事業のところ、ほかの県内の他市町村では、新たな林業従事人材の確保のために、例えばよそから来た人に住居費の補助とか、それから研

修費の補助などをこの譲与税を使いまして充てているというところもございました。

村の林業関係事業者の方でも確認しましたところ、本当に人材不足であると。若者がどんどん林業に携わっていただければいいんだけど、なかなか林業というものに対して、やはり危険を伴うし、大変だと。労力も要する仕事だということを懸念されて、人材がなかなか集まらないのではないかと。だから、そういった面で、そういった補助を検討するということはありますか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご質問でございますが、村の方でも、先ほど何か住宅の手当てとか、そういった研修費を補助しているところもあるということです。

関川村の方でも、昨年度も、一応林業担い手の確保ということで、担い手、山の担い手育成講座というのを開催しようとしたんですけども、参加者不足でまだ実施できなかったということがございましたので、また今後そういった、新たに林業に興味を持っていただける方を育てていく講座というか研修は続けていきたいと思っております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2番、加藤さん。

○2番（加藤つや子君） 助成関係なので、譲与税の使い方、先ほどお聞きしましたけれども、人材育成という部分では助成関係も該当するのかなと思いますし、また関川村だけでやろうとすると講習する人も集まらないということですが、こういった場合は、村上市と共同でということではできないのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 令和6年度の実績では、定住自立圏構想に伴うウッドジョブの開催費用ということで、林業特化のハローワークみたいな形での開催費用に21万7,000円充てておりますので、全くその担い手の方を考えていないということではなくて、取組をしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2番、加藤さん。

○2番（加藤つや子君） 村上市の森林組合も大規模でございますので、そちらとの協力をしていただきながら、林業の担い手を育成していってもらいたいと思っております。

3番目の地域活性化の取組支援ということで、そちらの方の再質問をお願いします。

令和5年度実績で、関川産材の利用促進事業がありました。これは森林環境譲与税、森林環境税を払う私たちにはより身近な内容なのかなと思いました。

他県では、地域活性化に役立つ廃校を利用した木のおもちゃ美術館というのをこの譲与税を使いましてつくっておるところがあります。全国では13件ほど立ち上がっておりますが、全て森林環境譲与税を使っているわけではございませんが、これについて少し真剣にちょっと取り組んでいただ

けたらと思うんですけれども、これは村民の理解も必要ですけれども、この譲与税がどんなふうに関与しているのかという点では、非常にいいものではないかと考えております。子供の木工、それから木工体験、それからふるさと体験などの事業に充てることはできないか伺います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご提案でございますけれども、確かにPRするにはいいものであるかというふうに興味深く聞かせていただきましたけれども、その事業の事業主体といたしますか、そういったところから直接お話を聞かせていただいて、その中でまず継続性とか、費用対効果といたしますか、そういったところも含めていろいろ検討させていただきたいと思っています。

ぜひ、そういうお話しがあるようであれば、来年度の当初予算編成前にお話しを頂ければと思います。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2番、加藤さん。

○2番（加藤つや子君） ありがとうございます。

実際、私たちも2回ほど秋田の方に視察に行っていました。実際そこでは廃校といえども、誘客が、他市町村や他県からも来ておまして、視察関係も入っていました。こういったものをつくることによって、村で伐採した間伐材とか木材、そういうものを非常に有効的に使えるんじゃないかと思ったわけでございます。

実際、地域おこし協力隊としていらっしゃる方が、木のおもちゃ美術館の建築に携わったという話も伺っております。村のインバウンド対策としても効果があるものではないかと思えますし、村の木材を有効的に使うという点では、非常に新しい考えであるかと思えます。渡邊邸だけではなくて、村の観光はもっとこういうところもあるんだというところで考えていけたらいいかと思うんですが、今後、先ほど課長がおっしゃったように、予算前にお話しを頂ければということでございましたので、ぜひとも私どもと一緒に視察に行くとか、そういったところをお願いしていきたいと思いますが、こういったことを実施する考えが村長にはありますか。いかがでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） せっかく、私、地域資源を生かした地域づくりといいましょうか、地域資源を生かした村づくりをしたいという考えがありますから、そういう意味では木材、あるいは木に関する文化とか様々な面で村政の発展のために利用できれば、そんなにありがたいことはありません。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2番、加藤さん。

○2番（加藤つや子君） 大変心強い回答、ありがとうございました。

ぜひともお願いして、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（小澤 仁君） これで一般質問を終わります。

日程第5、委員長報告

○議長（小澤 仁君） 日程第5、委員長報告を行います。

議会改革特別委員会委員長から報告を求めます。委員長、近 壽太郎さん。

○議会改革特別委員長（近 壽太郎君）

議会改革特別委員会調査報告書（中間報告）

本委員会に付託されました議件について下記のとおり行ったので、関川村議会会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 調査月日 令和7年8月26日火曜日

2 参 加 者

委員10名、事務局2名

3 調査場所

阿賀町役場（議場内ほか）

4 調査目的

本会議ライブ中継導入に向けた、阿賀町議会におけるライブ中継の調査視察

5 説明者

阿賀町議会副議長、広報広聴常任副委員長、事務局2名

6 阿賀町議会におけるライブ中継の概要

5年ほど前から、議会の可視化を目的に、会議の様子を庁舎内でモニター中継しておりました。令和5年からライブ中継を導入。この際、既設のカメラ2台、音声装置等を利用しておりました。住民がリアルタイムで視聴できることと、録画配信することでより多くの住民に情報が届きやすくなるなどの環境が整っておりました。視聴者も増加し、関心も高まっているとのことでした。議会事務局職員が機器の操作を担当しており、コスト面で抑えられておりました。ちなみに、事務局は3名でございました。既設の機器を利用することで、154万円で中継環境整備業務委託を締結しておりました。

7 ライブ中継導入に向けての考察

機器の操作や編集、配信等における事務局の対応と課題。

低コストでも、住民サービス向上と透明性を確保できる体制の確保。

簡易なライブ配信は可能かの検討。

全戸配付されるタブレットを活用した視聴の検討。

今後も、先進地事例等の調査検討に加えて、住民に開かれた議会を目指し努力したいと思います。

以 上

令和7年9月11日

議会改革特別委員会

委員長 近 壽太郎

関川村議会議長 小 澤 仁 様

○議長（小澤 仁君） 委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 質疑なしと認めます。

委員長、ご苦労さまでした。

以上で委員長報告を終わります。

日程第6、報告第10号 令和6年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告について

○議長（小澤 仁君） 日程第6、報告第10号令和6年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告についてを議題とします。

村長の報告を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 報告第10号は、令和6年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告についてです。

この報告は、法律の規定に基づきまして、村財政の健全化判断比率と資金不足比率について監査委員の意見書を付して議会に報告するものです。資金不足は発生しておらず、健全化判断比率は国で定める基準を下回っており、村の財政はおおむね健全性を確保しているものと思っております。

説明は以上でございます。

○議長（小澤 仁君） 健全化判断比率及び資金不足比率審査意見書については、事前に配付されていますので朗読による報告は省略します。

これより質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 質疑なしと認めます。

これで報告を終わります。

日程第7、報告第11号 専決処分の報告について（令和7年度関川村一般会計補正予算（第4号））

○議長（小澤 仁君） 日程第7、報告第11号専決処分の報告について（令和7年度関川村一般会計

補正予算（第４号））を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 報告第11号は、令和７年度関川村一般会計補正予算（第４号）の専決処分報告です。

これは、８月６日の大雨により発生した災害に対応するための補正予算について、地方自治法第180条第１項の規定により専決をしましたので、同条第２項の規定により報告をします。

具体的な内容につきましては、総務課長に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） それでは、令和７年度関川村一般会計補正予算（第４号）について説明いたします。

第１条では、既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ700万円を追加し、総額をそれぞれ67億1,520万円としてございます。

第２条は、地方債の補正でございます。

専決につきましては、令和７年８月７日に行ったものでございます。

歳出から説明をさせていただきます。

10ページを御覧ください。

10款１項１目農地農業用施設災害復旧費でございます。

12節委託料200万円でございますが、こちらは幾地地内で農地災害が発生しまして、その対応の予算となっております。

14節工事請負費500万円につきましては、今ほどの幾地地内の農地災害対応として300万円、そのほか未確認の災害対応として200万円を計上してございます。

次に、歳入を説明させていただきます。

８ページを御覧ください。

12款１項４目災害復旧費負担金50万円でございます。こちらは農地農業用施設災害復旧事業受益者負担金でございます。

15款２項８目災害復旧費県補助金150万円、こちらにつきましては、幾地地内の農地災害の対応ということで県補助を予定してございまして、２分の１補助でございます。

９ページを御覧ください。

19款１項１目繰越金70万円、21款１項10目災害復旧事業債430万円を計上させていただいております。

続いて、ページ戻っていただきまして、７ページを御覧ください。

地方債の補正でございます。

災害復旧事業債を追加いたしまして、限度額を430万円とするものでございます。

説明は以上です。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 9番、平田です。

専決処分になっていますけれども、今は通年議会制をとっているのですよね、議会。専決しなければならなかった理由というのは何ですか、急ぐ理由というのは。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） 専決処分につきましては、議会の方で定めていただいております村長専決処分事項の指定の第7項で、災害及び突発的な事象により応急に必要となる歳入歳出予算の補正をすることが認められてございますので、そちらの方で対応させていただいたものでございます。

幾地地内の災害については、すぐ発災情報入ってまいりまして確認できたんですが、そのほかまだ確認できない情報が入ってきていない災害もあるということを考えて、早急に応急工事などをしなければならない、あるいは幾地の災害につきましても災害査定に向けて早急に測量に入っていかなければならないということで、専決処分をさせていただいたものです。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 議会は通年議会なんですから、3日もあればできるわけだ。議会を開くこともできる。これからまだ発生するかもしれないこともあるし、査定というのは、災害あって、測量して、査定を受けに、また時間1か月もかかってきたと言っているわけですね。今はどういうふうになっているか分からないけれども、昔は皆現場査定で、現場に来て、国から査定官等、それから家に帰って財布持っている人が来て災害査定するわけですよ。そんなに急でなくてもいいような気がしたんだけど、どうしてもやはりすぐにでも実施するということなんですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） 災害査定というところで言いますと、まず測量してそれで金額、積算を進めておかないと、災害査定が入ってくるというときに間に合わない場合もございます。

また、そのほか未確認の災害につきまして、例えば用水路が被災したというときに、すぐ水が、特にこの8月は出穂の時期でございまして、すぐ水が必要というふうになることも考えられます。そういったときに、議会の開催ということで待っていますと、大事な、水が必要な時期を外してしまうということも考えられますので、そういった意味で、工事費などを早急に専決させていただいたものでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 大体内容分かりましたけれども、例えば田んぼを直す場合でも、用水を直す

場合でも、今であれば時期、重機入れるのにみんな刈とりせねばないわけですよね。だから、普通の工事でも皆刈とり終わってから工事にかかる、そういうあれだと思うんです。そこまで急ぐ必要あったのかというふうに、不思議に感じるんですけども。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） 先ほども申し上げましたけれども、平田議員がおっしゃるように、刈とり後の工事、本工事というのはどうしてもそういった時期ということになる場合があるかと思います。

ただ、用水路ですとかあるいは農道などが通行止めになっているというような状態ですと、早急に対応しないと稲作あるいは畑作などにも影響を及ぼすということがありますので、それで、災害級の大雨でございましたので、専決処分をさせていただいたものでございます。

○議長（小澤 仁君） そのほか質疑ありませんか。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 10番、鈴木です。

今の農地災害ということで、これの詳細を教えてくださいましては、今農道と用水路の関係で急を要するというような説明でしたが、詳細を教えてください。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） 幾地の農地災害につきましては、田んぼの畦畔が田面まで影響するくらい崩壊したというものでございます。

私が申し上げている用水とか農道というのは、未確認のものが、もしもそういったところが出てきたときに、早急に対応しなければならないというものが出てきたときに、対応できるようにというものでございます。今回専決処分をさせていただきましたけれども、その後そういったところは出てきていないということで聞いてございます。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） それでは、未確認の部分で200万円計上されていましたが、これは農道、用水路ってということでよろしいでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） 農道、用水路に限ったところではございませんで、早急に対応しなければならないというものを想定したというところで、まだこういったところというのが分かりませんので、概算で上げさせていただいたものです。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 鈴木です。

概算で200万円と言いますが、未確認の部分で、全く確認のない状態で200万円というのを計上されたんですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） そのとおりです。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） 7番、高橋です。

平田議員と同じ質問だったので、取下げます。

○議長（小澤 仁君） 3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 3番、川崎です。

今回の歳出が700万円ということなんですけれども、先ほど災害級の出来事だということですが、補助は150万円だけなんですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 災害復旧事業で、今基本的に、基本補助率というところで計上させていただいておりますけれども、これから国の方に申請をいたしまして、補助率は増嵩されるのではないかと考えておりますが、その補助率についてはまだ決まらないという状況です。査定を受けてからの申請になるかと思えます。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 3番、川崎です。

ありがとうございます。

ちなみに、最大どれくらいまでの補助率になる可能性があるのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） はっきりとは申し上げられませんが、8割から9割ぐらいの国の補助がもらえるのではないかとこのところ、今動いております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。

そのほか質疑ありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） これで質疑を終わります。

これで報告を終わります。

日程第 9、認定第 2 号 令和 6 年度関川村下水道事業会計の決算認定について

日程第 10、認定第 3 号 令和 6 年度関川村簡易水道事業会計の決算認定について

○議長（小澤 仁君） 日程第 8、認定第 1 号令和 6 年度関川村各会計の決算認定について及び日程第 9、認定第 2 号令和 6 年度関川村下水道事業会計の決算認定について並びに日程第 10、認定第 3 号令和 6 年度関川村簡易水道事業会計の決算認定についてまで、以上 3 件を一括議題とします。

村長の説明を求めます。なお、詳細な説明は、これから設置する令和 6 年度決算審査特別委員会においてお願いします。村長。

○村長（加藤 弘君） 認定第 1 号から第 3 号は、令和 6 年度決算の認定についてです。

令和 6 年度の一般会計と 6 つの特別会計の決算につきましては、5 月末をもって出納閉鎖し、会計管理者において決算書が調整され、村長に提出されました。

また、公営企業の下水道事業会計と簡易水道会計につきましても、3 月末をもって決算書を調整しています。

それぞれの決算書について、監査委員に対し監査の実施を要請し、このほど意見が提出されました。決算書にその監査委員の意見書を添付し、また法の定めるところによりまして、主要な施策の成果を説明する書類を添えて議会の認定に付すものであります。

十分ご審議の上、認定いただきますようお願いいたします。

○議長（小澤 仁君） これで村長の説明を終わります。

決算審査意見書については、事前に配付されていますので、朗読による報告を省略します。

ただいま議題となっています認定第 1 号から認定第 3 号については、8 人の委員で構成する令和 6 年度決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上審査することにしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、8 人の委員で構成する令和 6 年度決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上審査することに決定しました。

資料を配付するため、しばらく休憩します。

午後 1 時 5 0 分 休 憩

午後 1 時 5 1 分 再 開

○議長（小澤 仁君） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

○議長（小澤 仁君） お諮りします。令和 6 年度決算審査特別委員会の委員については、委員会条例第 7 条第 2 項の規定により、ただいま配付しました令和 6 年度決算審査特別委員会の名簿のとおり

り指名したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) ご異議なしと認めます。

したがって、別紙名簿のとおり選任することに決定しました。

しばらく休憩します。

午後 1 時 5 1 分 休 憩

午後 2 時 0 7 分 再 開

○議長(小澤 仁君) 休憩前に引き続き、会議を再開します。

日程第 1 1、議案第 6 2 号 関川村議会議員及び関川村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例

○議長(小澤 仁君) 日程第11、議案第62号関川村議会議員及び関川村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長(加藤 弘君) 議案第62号は、関川村議会議員及び関川村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例です。

これは、公職選挙法施行令の一部改正に準拠し、村の条例を改正するものです。

詳細について、総務課長に説明させます。

○議長(小澤 仁君) 総務課長。

○総務課長(渡邊浩一君) それでは、関川村議会議員及び関川村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例について説明します。

今回の改正は、公職選挙法施行令の一部を改正する政令が令和 7 年 6 月 4 日に公布され、衆参議員の選挙運動の選挙公営に係る限度額が引上げられたことに準拠し、村の議会議員及び村長選挙の選挙運動の公費負担限度額を上げるものです。

新旧対照表を御覧ください。

第 8 条は、選挙活動用ビラ作成の公費負担限度額を 1 枚当たり 7 円73銭から 8 円38銭に改正するものです。

次に、第11条は、選挙運動用ポスター作成の公費負担限度額の算定に用いる単価を、1 枚当たり 541円31銭から586円88銭に改正するものです。

説明は以上です。

○議長(小澤 仁君) これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありますか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっています議案第62号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) ご異議なしと認めます。

したがって、議案第62号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありますか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) 討論なしと認めます。

これより議案第62号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) ご異議なしと認めます。

したがって、議案第62号は原案のとおり可決されました。

日程第12、議案第63号 関川村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例

○議長(小澤 仁君) 日程第12、議案第63号関川村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長(加藤 弘君) 議案第63号は、関川村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例です。

これは、人事院規則の一部改正などに伴い、村の条例を改正するものです。

詳細について、総務課長に説明させます。

○議長(小澤 仁君) 総務課長。

○総務課長(渡邊浩一君) 関川村職員の勤務時間、休憩等に関する条例の一部を改正する条例について説明します。

今回の改正は、育児休業、介護休業等、育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正に伴う人事院規則の一部改正が令和7年10月1日に施行されることに伴い、村の条例を改正するものです。

新旧対照表を御覧ください。

第17条の2を加え、第1項では、妊娠または出産したことなどを申出た職員に対し、職員の仕事と家庭との両立を支援するための両立支援制度について個別周知し、意向確認及び配慮を行うことを規定するものです。

第2項では、3歳に満たない子を養育する職員に対し、両立支援制度について個別周知し、意向確認及び配慮を行うことを規定するものです。

説明は以上です。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっています議案第63号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第63号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第63号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第63号は原案のとおり可決されました。

日程第13、議案第64号 関川村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

○議長（小澤 仁君） 日程第13、議案第64号関川村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第64号は、関川村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例です。

これは、地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正などに伴い、村の条例を改正するものです。

詳細について、総務課長に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） 関川村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について説明します。

今回の改正は、地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正が令和7年10月1日に施行されることに伴い、村の条例を改正するものです。

新旧対照表を御覧ください。

第22条は、これまでの部分休業を第1号部分休業とし、改正前は勤務時間の始めまたは終わりにおいて承認を行うこととなっておりますが、改正後は「始めまたは終わりにおいて」を削り、1日につき2時間以内、30分を単位として承認することとするものです。

さらに、第22条の2から第22条の5までを加え、育児休業法で新たに設けられた第2号部分休業について、村の条例で定める事項を規定しています。

概要としましては、第2号部分休業については、1時間を単位として、年度ごとに非常勤以外の職員は77時間30分を、非常勤職員は1日当たり勤務時間数に10を乗じた時間を承認することができるというものです。

説明は以上です。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております議案第64号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第64号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第64号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第64号は原案のとおり可決されました。

日程第14、議案第65号 下越福祉行政組合規約の変更について

○議長（小澤 仁君） 日程第14、議案第65号下越福祉行政組合規約の変更についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第65号は、下越福祉行政組合規約の変更についてでございます。

詳細について、健康福祉課長に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（田村清洋君） それでは、議案第65号下越福祉行政組合規約の変更について説明させていただきます。

これは、共同で処理しております、障害福祉の事務をお願いしております下越福祉行政組合の方の規約変更の必要が生じたということで、今回上程させていただくものでございます。

内容につきましては、新旧対照表を御覧ください。

まず、第3条第4号につきまして、第5条18項を第5条19項へ変える、これは法律改正によりまして参照条文がずれたために改正するものでございます。

続きまして、第4条でございます。組合の事務所が新築移転することに伴いまして、住所が変わるところでの変更でございます。

以上でございます。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております議案第65号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第65号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第65号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第65号は原案のとおり可決されました。

日程第15、議案第66号 村道路線の廃止について

○議長（小澤 仁君） 日程第15、議案第66号村道路線の廃止についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第66号は、村道路線の廃止についてです。

これは、現在使用不能となっております村道で、今後も村道として維持する必要のないことから廃止するものです。

詳細については建設課長に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 村道九ヶ谷郷2号線の路線廃止について説明させていただきます。

図面の方をはぐっていただきたいんですが、場所については沼川の上流、大里沢があります。こちらの方に、沼川を横断していっています延長246.1メートル、こちらについて、現在橋梁が崩落しておりまして、通れない状態であります。また、この大里沢橋については、砂防堰堤建設時の進上路として、仮橋として設置し、そのまま存置していたものであり、令和4年8月豪雨で被災し落橋したというところであります。

大里沢橋その先の村道についてですが、以前は田んぼもあり耕作されていましたが、平成20年代前半の頃に耕作放棄地となっており、それ以降使用していない状況のため、今回廃止するものです。

説明は以上です。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております議案第66号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第66号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第66号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第66号は原案のとおり可決されました。

日程第16、議案第67号 村道路線の変更について

○議長（小澤 仁君） 日程第16、議案第67号村道路線の変更についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第67号は、村道路線の変更についてです。

これは、国有林道と重複している村道路線の変更を行うものです。

詳細については建設課長に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 議案第67号村道認定の変更についてですが、こちらは村道七ヶ谷郷2号線、大石ダムの管理所から彫刻公園先までの延長2,958.1メートルを大石ダム管理所から大石林道1号橋手前までの1,178.1メートルに変更するものです。

昨年度末、下越森林管理署村上支署に確認したところ、村道の七ヶ谷郷2号線が、一部森林管理署の林道として管理していることが判明しましたので、協議の結果、当初昭和56年に村上営林署と国有林の貸付契約を行い村道認定としている、今回変更の終点までとして変更するものです。

説明は以上です。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 10番、鈴木です。

それでは、これは村道が2キロ近く短くなるということなんですけれども、これは今度、そこから先は下越森林管理署で管理していくようになるのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） もともと下越森林管理署で管理していたところに、村が重複で村道認定しておりましたので、管理は今までどおりといいますか、下越森林管理署の方でしてもらうことになります。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） ということは、彫刻の森への道路の管理は、もう村は関係ないということで

すか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 下越森林管理署の担当課に確認したところ、植物園及び彫刻公園については、今現在、管理もしていないということで、大石ダム管理所の方とも協議した結果、このように管理しないことになりましたので、今回外すということです。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） それでは、その村道の最終のところ、ゲートができるということはあるんですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 下越森林管理署との協議の中では、ゲートの移設ということで協議をしております。

○議長（小澤 仁君） 質問は、ゲートができるかできないかって聞いています。もう一回、建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 今現在の終点位置にゲートありますが、そちらのゲートを移設するという事で協議を進めております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） これ、机差の登山道として大事なルートになるんですけれども、今最終のところまで車で行けるような形なんですけれども、もし車で行けなくなると、かなりの距離をまた徒歩で行くような形になるんですが、それはゲートできないような方向でお願いしたいというふうに思うんですが、やはりゲートをつくる方向で検討していますか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） あくまでも林道というのは専用道ということで、国といろいろ協議はしたんですが、やはりその辺は林道としての管理となると、その時点、林道の起点の部分、そちらの方にゲートを設置して、不用意に車両の進入等しないようにするということが前提ということで協議を終えています。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 私が言っているのは、観光資源としての大事なルートだと思うので、それを何とか維持してほしいということで質問しているのですけれども、そちらの方で、観光資源として、ゲートはつくらずに奥まで行けるような方向性を見いだすことはできないでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 暫時休憩します。

午後２時２６分 休 憩

午後２時２７分 再 開

○議長（小澤 仁君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） 登山道という質疑が出ましたけれども、現状について私の方から説明をさせていただくと、令和４年の豪雨災害で今一部崩壊しております。ここについては復旧の方、林野庁に対して要望はしておるんですが、具体的な内容等についてはまだ決まっていない現状になっております。

実際、今のところ林野庁としては、このゲートの方を封鎖しておりますし、村としても登山道は通行禁止にしているというのが現状になるんです。

○議長（小澤 仁君） 暫時休憩します。

午後２時２７分 休 憩

午後２時２９分 再 開

○議長（小澤 仁君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 先ほども説明しましたように、国の管理の林道となりますので、登山道とはまた別に考えがありまして、不特定多数の通行については許可をしていないと。林野の届出をすれば許可はできますけれども、そこに車の乗り入れとか、それは許可をしていないというのが林野庁の回答ですので、そこはどうしても、ゲートの方は手前に持ってくるということでの協議になっております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。

そのほか質疑ありませんか。５番、近 壽太郎さん。

○５番（近 壽太郎君） ５番、近 壽太郎です。

ただいまの説明ですと、登山道としては全然許可はしていないけれども、今度新しくできるそのゲートから先は、車の乗り入れはできないけれども、歩いて彫刻の森まで行くっていうことは可能なんですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） それは、多分下越森林管理署の方に、入林届っていうことをすればいいのかとは思っていますが。

○議長（小澤 仁君） ５番、近さん。ちょっとマイクに近づいてしゃべってください。

○5番（近 壽太郎君） いちいちやはり下越森林管理署の方に届け出ないと、こちらの役場の窓口では駄目だということですかね。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） 村ではなくて、あくまで下越森林管理署に対する入林届の申請になります。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。5番、近さん。

○5番（近 壽太郎君） それでは、ゲートが移設されるっていうその時期はいつ頃になりますか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 今回議決していただきましたら、予算としては、新年度予算に計上して審議していただきたいと思います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。5番、近さん。

○5番（近 壽太郎君） 新年度予算っていうことになると、すぐには移設しないということですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） そのとおりでございます、今回村道の認定、変更認定になりましたら、鉄パイプでつくられているような、ああいうバリケードを置いて通行止めの看板をさせていただくことになるかと思います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。5番、近さん。

○5番（近 壽太郎君） 村の新年度予算を取ってということですが、ゲートそのものは下越森林管理署の管轄ではないのですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） その辺はいろいろ協議したんですが、国としては、ほかの自治体でもそういうことがあった場合は、全部原因者負担で行っているということで、村の方で移設してくださいということでの回答がありました。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 9番、平田です。

今の話聞いていますと、下越森林管理署に、管理は向こうの方になるということでもいいんですけれども、それは今まで村で草刈りを行い、下越森林管理署が出してくれるならいいんですけれども、話し合いで、ゲートを今までどおりそこにしてくださいということを強く求めることはできないですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） その辺は、私たちとしても必要だと思って、何回も、どうにかならない

かと言ったんですが、やはり管理が、国管理になるのであれば、それはゲートも移設してもらわなければ、それについては今までどおり村道で管理するという方向の話合いでしかありませんでしたので、ゲートはどうしてもこちらの方ですることになると思います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 担当と担当課長同士の話合いではやはりそこまでしか行かないと思うんですが、もし何かの会議のときに、村長から営林署長に話しすれば通る可能性ある話だと思います。

私も、やはりこの国有林に係っているダムとかが壊れた場合に、なかなか直してくれないんです。もう担当課長同士では駄目なんです。会議があるので、村長から署長に話してくれと。そうしたら、すぐOKになったんです。そういうこともありますので、ひとつその辺を考えてもらいたいと思います。お願いします。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） ご指摘頂いてありがとうございます。

もともと、この村道路線を維持するのにかなりお金をかけています。そういうこともあって、本来下越森林管理署で維持管理しているのであれば、そこまでわざわざ村費を入れて維持する必要ないだろうと、下越森林管理署でやってもらえばいいという発想ですが、当初この延ばした経緯があるということで、実務的な協議ではそういう話になりましたが、今ご指摘頂きました、そのままでもいいのではないのかと、私もそう思うんです。議会から強いご指導を頂いたということで、機会を捉えて、私の方からもそのまま何とかならないのかという話しはしてみたいと思います。それでも、どうしても不可能となると、これは致し方ないことですが、私も一度トップの方とお会いをして、要望はしていきたいと思います。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。

そのほか質疑ありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっています議案第67号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第67号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第67号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第67号は原案のとおり可決されました。

日程第17、議案第68号 村道路線の変更について

○議長（小澤 仁君） 日程第17、議案第68号村道路線の変更についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第68号は、村道路線の変更についてです。

これは、脱炭素事業の実施に合わせまして、村道路線の見直しを行うものでございます。

詳細については建設課長に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 議案第68号村道路線の変更について説明させていただきます。

村道川北郷58号線は、松平畜産団地の草地から畜舎上の山林までの延長382.5メートルを畜舎手前の村道交差点部から畜舎上の山林までの延長161.6メートルに変更するものです。

松平畜産団地の草地内の部分について、現況が草地と一体となっているため村道路線から外し、畜舎側のみ村道路線とし、草地内は脱炭素事業の太陽光パネル設置事業として一体的に使用するものです。

説明は以上です。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 10番、鈴木です。

では、太陽光パネルがこの道を塞ぐような形で設置されるということによろしいですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。脱炭素推進室長。

○脱炭素推進室長（大島祐治君） 今ほどのご質疑でございますが、議員ご指摘のとおり、ここの道路路上にも太陽光パネルが敷設される計画でございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。

そのほか質疑ありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっています議案第68号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第68号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第68号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第68号は原案のとおり可決されました。

日程第18、議案第69号 村道路線の変更について

○議長（小澤 仁君） 日程第18、議案第69号村道路線の変更についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第69号は、村道路線の変更についてです。

これは、脱炭素事業の実施に合わせ、村道路線の見直しを行うものです。

詳細については建設課長に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 議案第69号村道路線の変更についてですが、村道名は村道両関四ヶ字郷20号線、こちらは関川中学校手前の坂、通称元気坂のY字路から六本杉入り口、J R踏切交差点の丁字路までの延長1,723.7メートルを、関川中学校先の墓地入り口から六本杉入り口、J R踏切交差点丁字路までの延長1,494.2メートルに変更するものです。

元気坂から柔剣道場先までは村道路線から外し、関川中学校校門から柔剣道場先までは、脱炭素事業の関係から、学校敷地として一体管理するものです。

また、村道両関四ヶ字郷35号線は、今ほど説明しました村道両関四ヶ字郷20号線の元気坂から関川中学校、校門丁字路までを村道両関四ヶ字郷35号線として、村道両関四ヶ字郷35号線の起点を元気坂のY字路からに変更するものです。これにより、当初の延長156.3メートルから215.5メートルに変更するものです。

説明は以上です。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 10番、鈴木です。

中学校の敷地になるということは、今までどおりの通行というのは可能なんですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 今までどおりの通行が可能となります。

また、今までどおり除雪についても、避難所としておりますので、公共施設の除雪ということで、今までどおりということにしております。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） すみません。取下げます。

○議長（小澤 仁君） そのほか質疑ありませんか。9番平田さん。

○9番（平田 広君） 9番、平田です。

学校の校内にするとということですが、村道をおろすということですが、今までどおり使えるのであれば、そのまま村道にしておいて、そうすれば、それによってその分だけ交付税も違ってきますし、その方が得だと思えるんですが、その辺はなぜですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。脱炭素推進室長。

○脱炭素推進室長（大島祐治君） 該当となります村道についての使用の仕方ですが、今回オンサイトPPAとして太陽光の発電設備を設置しておるわけですが、その配線ルートとして、国の電気事業法の関係上、同一使用区域内という必要がございます、経産省の産業保安監督部の方に照会をして判断をされましたので、今回村道から外していただくことをお願いしております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。

そのほか質疑ありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっています議案第69号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第69号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第69号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第69号は原案のとおり可決されました。

日程第19、議案第70号 令和7年度関川村一般会計補正予算（第5号）

○議長（小澤 仁君） 日程第19、議案第70号令和7年度関川村一般会計補正予算（第5号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第70号は、令和7年度関川村一般会計補正予算（第5号）です。

今回は、地域経済活性化の起爆剤となり得るインバウンド関係についても補正をお願いしています。これは、今年度から地域活性化起業人を採用し、体験コンテンツの造成など誘致に向けた調整を進めていますが、今後商談に向けた準備として、PR動画の作成や関係者の招致が必要なことから、これらの経費を計上したものです。

具体的な内容は、総務課長に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） 令和7年度関川村一般会計補正予算（第5号）について説明いたします。

第1条において、既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ5,390万円を追加し、総額をそれぞれ67億6,910万円とするものです。

第2条につきましては、地方債の補正でございます。

歳出から説明をさせていただきます。

12ページを御覧ください。

2款1項1目一般管理費でございます。

11節役務費につきましては、第5次L G W A Nに移行するため回線を複線化、今まで1回線でつないでいたものを2回線準備する必要があるございますので、それに伴う補正でございます。81万1,000円。

12節委託料につきましては、人事給与システムの改修委託料で35万円ですが、こちらは税制改正に伴う改修が必要となっているものでございます。

13節の使用料及び賃借料、こちらにつきましても、第5次L G W A Nの移行に伴いまして接続機

器、ルーターを増設する必要がありますので、リース料32万4,000円を計上してございます。

次に、4目財産管理費でございます。

10節需用費、修繕料でございますが、こちらは旧大島保育園の関川村大島交流館において、給湯器等の頭部を故障などにより取り替えるものでございます。35万円でございます。

12節の委託料につきましては、関川小学校の地下タンク検査委託料としまして3万7,000円でございます。

6目安心安全対策費14節工事費でございますが、全国瞬時警報システム、J-A L E R Tの更新工事として1,350万円でございます。

7目地域振興費7節報償費でございます。こちら、インバウンドの動画作成の関係で11万4,000円でございます。

10節の需用費につきましては、こちらもインバウンドの動画作成の関係で消耗品費5万3,000円。

12節委託料、地域振興費につきましては、インバウンドの関係でございます。商談用コンテンツ動画制作委託料として180万円、招致旅行業務委託料として350万円でございます。地域情報通信事業費としましては、こちらは幾地と内須川のテレビ共同受信施設を光回線化するというものの設計委託料でございます。240万円。

13節使用料及び賃借料でございます。こちらはインバウンドの動画制作に係る使用料でございまして、23万1,000円。

18節負担金補助及び交付金につきましては、こちらもインバウンドの動画制作でございまして、学校給食負担金で2,000円でございます。

続いて14ページ、2項1目税務総務費でございます。

22節償還金利子及び割引料でございますが、還付金の方の予算残が少なくなったことに伴い50万円を補正してございます。

2目の賦課徴収費12節委託料でございますが、税務電算事務委託料として16万5,000円。こちらは軽自動車税に新基準原付が追加されることによりシステム改修の必要がございますので、その委託料でございます。

次に、4項3目村長選挙費でございます。

10節の印刷製本費でございますが、1万円でございます。こちらはビラ及びポスター作成に係る限度額の引上げによるものでございます。

次のページ。

3款1項1目社会福祉総務費18節負担金補助及び交付金でございますが、こちらは物価高騰対策重点支援給付金で1,340万円でございますけれども、こちらは令和6年の所得額確定による増額となっております。

2 目老人福祉総務費でございます。22節精算による国県支出金の返還金で42万8,000円。

4 目心身障害者福祉費12節委託料でございますが、自立支援給付システム改修委託料で16万5,000円。こちらは利用者負担区分の見直しに伴う改修が必要なためのものがございます。また、県単医療システム改修委託料として16万5,000円。こちらは重度心身障害者医療費助成制度の所得制限の変更に伴う改修でございます。

22節の1,059万2,000円、こちらにつきましては、精算による国県支出金の返還金でございます。

5 目国民年金事務費12節委託料でございます。国民年金システム改修業務委託料で51万7,000円。年金機構への情報提供をする際の仕様の変更に伴う改修でございます。

2 項 1 目児童措置費12節委託料、児童手当システム改修委託料55万円、児童手当法改正に伴う改修で、国の補助10分の6を受けることができます。

17節備品購入費、学童保育用テーブル4台で40万円、こちらは学童保育の折り畳みテーブル、足が折り畳まれるテーブルがございまして、そちらが容易に使っているときに畳まれてしまうということで、子供のけが防止のために新たに4台購入して交換するものがございます。

22節につきましては、精算による国県支出金の返還金として9,000円でございます。

2 目保育園管理費12節委託料20万円。こちらにつきましては、園庭の立木の枝が街灯にかかり支障になっているため、剪定作業を委託するものがございます。

次のページ。

4 款 1 項 4 目母子衛生費22節43万8,000円。精算による国県支出金の返還金でございます。

次のページ。

5 款 1 項 4 目畜産振興費10節修繕料で50万円でございます。こちらは、予算残が少なくなったことに伴う補正でございます。

2 項 3 目林道整備事業費14節工事請負費でございます。200万円。林道蛇喰中束線復旧工事、令和6年度からの繰越し工事でございますけれども、こちらの増工に伴うものがございます。

19ページ。

8 款 1 項 1 目消防総務費17節備品購入費19万3,000円。消防団旗の旗ざお、竿頭、旗立て台が老朽化により破損したため買い換えるものがございます。

9 款 3 項 1 目学校管理費11節8万6,000円、こちら通信運搬費でございますが、中学校の通信環境の改善のため、契約を拡充するものがございます。

次のページでございます。

5 項 2 目保健体育施設費12節委託料11万円。安角ふれあい自然の家の体育館の清掃及びワックスがけの委託料で、11万円でございます。

続いて、歳入を説明させていただきます。

8 ページを御覧ください。

10款 1 項 1 目地方交付税、特別地方交付税で、285万円でございます。こちらはインバウンド分として50%措置されるというものでございます。

14款 2 項 1 目総務費国庫補助金、こちら物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金で1,340万円、補助率10分の10でございます。

2 目民生費国庫補助金、子ども子育て支援交付金、児童手当システムの改修になりますが、30万3,000円で、10分の6の補助率でございます。

ページめくっていただきまして、3 項 2 目民生費委託金、国民年金事務委託金。こちらは国民年金システムの改修に当たるものでございまして51万7,000円。補助率10分の10でございます。

15款 2 項 4 目農林水産業費県補助金でございます。治山事業費県補助金300万円でございますが、こちらの歳出予算につきましては6 月補正で計上をさせていただきました下関地内の林地崩壊復旧工事でございます。このたび県補助の対象になるということで計上させていただいたものでございます。補助率10分の6でございます。

18款 2 項 1 目特別会計繰入金、介護保険特別会計繰入金で、900万円でございます。

次のページ。

19款 1 項 1 目繰越金、前年度繰越金で1,163万1,000円。

20款 6 項 3 目過年度収入でございます。国県支出金過年度収入で269万9,000円。こちらは障害者自立支援給付で178万6,000円。重層的支援体制整備事業で91万2,000円でございます。

21款 1 項 1 目総務債、テレビ難視聴地域対策事業で240万円、全国瞬時警報システム整備事業で1,110万円。

4 目農林水産業債、林地崩壊対策事業、こちらの方、先ほど説明した県補助の措置がありますので、それに伴い300万円の減でございます。

次に、ページ戻っていただきまして、7 ページを御覧ください。

地方債の補正でございます。変更でございます。

総務管理債で、限度額を1,350万円追加し、2 億8,870万円とするものでございます。こちらはテレビ難視聴対策、また全国瞬時警報システムの対応によるものでございます。

説明は以上です。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。6 番、加藤和泰さん。

○6 番（加藤和泰君） 6 番、加藤です。

7 目地域振興費、13ページで、委託料の中の招致旅行業務委託料350万円。この内容の詳細をお聞かせください。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） この招致旅行業務委託料についてですが、今年の7月に、地域活性化起業人がフィリピンに行く機会がありまして、そのときに、もともとこのつながりのあった現地の大学、あとは旅行会社の方との話の中で、関川村の紹介をされたそうなんです。

このときに、大学側の方から非常に関川村の、例えば六・三・三制発祥の地と言われているんですけど、教育のところ、あとそれから日本の米づくりのところ、ここに非常に、大変関心を示されたということで、その話の中でぜひ村にも見に来ていただきたいということで、こちらの予算の方を上げさせていただいたというのが経緯になります。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。6番、加藤さん。

○6番（加藤和泰君） そうしますと、現地のフィリピンの方が下見に来られる経費ということでよかったでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） そうなります。

ただ、この予算、350万円という金額載っておりますが、実はこれ予算入力するタイミングでは、まだ現地の大学の方から具体的な人数というのが示されておりました。ただ起業人の話で、7月に行ったときの話の中から、最大でも5名程度だろうということで、5名分の予算の方計上させていただいております。

ただ、つい先日になりますけれども、現地大学側の方から起業人の方に連絡ありまして、来られるのが恐らく年明けになるんですが、2名程度で今調整中だという連絡の方は頂いております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 10番、鈴木です。

12ページ、財産管理費委託料、地下タンク検査委託料ということですが、小学校の地下タンク、何の地下タンクなのでしょう。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） こちらは油の地下タンクでして、3年に1回検査しなければならないというものでございまして、今回その検査の年に当たっているというものでございます。

○議長（小澤 仁君） 10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） それでは、13ページ、商談用コンテンツ動画制作委託料。これは海外、インバウンドということですが、海外に向けての招致動画、これ対象国はどちらの方でしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） この商談用動画につきましては、対象国は、実際海外での売り込みを来年度予定しておるんですが、まだ起業人の中で幾つか候補となる国の方は聞いたことあるんで

すけれども、まだ実際どこに行くのかというところはこれから精査することになりますので、今これをはっきりお答えすることはできません。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 動画ですから、音声さえ変えればどちらの国でもできるのかと思うんですけれども、どこの国を対象とせずに、もう全世界対象にしてつくっていただければというふうに思っております。

それはもう今後、いつ頃これはできるんでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） 起業人が4月に来てから、地域の中でいろいろな調整を進めておりまして、もう具体的なまとまったものもあれば、今もうある程度まとまりつつあって、あとは細部のところを詰める段階のものもあります。あとは季節、例えば雪がないと撮影できないものとかもありますので、一応、予定としては今年度14本程度を予定しておりますけれども、年度末までにその予定しているものを全て撮影できればと考えております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 19ページ、消防総務費、竿頭の破損ということでしたけれども、これ7日の日曜日には使われたわけですが、そのとき壊れたわけではなくて、まだ使えるけれども変えるということでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） 7日の秋季消防演習でも使用してございます。ただ、かなりもう古くなっておりまして、これまでに何回も風で倒れるということがございます。

さおにつきまして、特に傷みが激しく、2本をねじでつなぐような構造になってございます。そのねじの部分が非常に弱くなっておりまして、がたつくと言えはよろしいでしょうか、しっかりとめられないというのがございます。また、竿頭、旗の上につける飾りと言えはよろしいでしょうか、そちらについても老朽化で故障、破損してございます。

そういったことがございまして、旗自体は今までのものを使いますが、ここにあります旗ざお、竿頭、旗立て台の交換を行いたいというものでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。4番、近 敬志さん。

○4番（近 敬志君） 4番、近です。

13ページ、先ほどのインバウンド関連で、フィリピンの方と、興味を持っていただいて招致するというお話してございました。

例えば、ほかの国の大学なり企業なりが興味を持って、ちょっと来てみたいということであれば、条件さえ合えば、また費用を出して招致するっていうお考えはあるのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） 今回村に来ていただくというのが、これ起業人に聞いたところは、本来であれば動画で説明するとその場で、ほぼほぼ完結するらしいんです。ただ、7月の時点では口頭での説明、動画がなかったもので、ちょっとやはりなかなかイメージを持ってない部分もあったということで、今回は村の方に来ていただくという形をとりました。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。4番、近さん。

○4番（近 敬志君） ありがとうございます。

そうすると、フィリピンで今度来てもらうというのは、その後にプラスインバウンドで国内、フィリピンからのお客様なんかを呼ぶきっかけにつなげていくってことの最初のスタートっていいのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） まず、先方の方から、非常に前向きだというお話の方も伺っておりますし、年明けのまず視察を踏まえて、起業人から聞いた話では、順調にいけば、まずは第1弾として、来年の11月くらいを受入れできそうだっていう話を伺っております。

そこで、まず一旦受入れて、そこでももちろん検証とか必要になりますけれども、そういったところから実績を重ねていって、広げていければと考えております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 3番、川崎です。

12ページをお願いします。

6目安心安全対策費の中で、J－A L E R Tのシステム更新工事1,350万円とあるんですけども、これ具体的にどういった工事なんでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） こちらにつきましては、国の方で、令和8年度の出穂期を目途に、気象庁が防災気象情報を発信するというような準備があるということでございまして、それに対応するには、この新しい機械に変えなければならないというものでございます。

こちらはもう全国的に交換しなければならないということでございまして、工事の内容としましては機器、あとアンテナ、そういったものを一式交換する必要がございます。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） ありがとうございます。

その防災気象情報というのは、いつから運用されるんでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（渡邊浩一君） こちらもう既に現在の機器でJ－A L E R T、ミサイルですとかそういったものが、自動的に広報無線の方を起動させまして村民の皆さんに広報できるという機器、既に整備されているのですが、先ほど言ったような対応が今後増えてくるということでございまして、その機器を交換しないとそういった対応ができないというものでございます。

一応、整備としましては今年度中ですが、一時的に通信を切る可能性、切らなければならないという可能性もございすけれども、今の通信をできるだけ切断しないようにして、新たな機器に交換して通信自体、情報提供自体は続けて行えるようにしたいと思っております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 次、15ページをお願いします。

2目と4目に、この返還金が結構いろいろあるんですけれども、これはこういった返還金なのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。健康福祉課長。

○健康福祉課長（田村清洋君） 2目、4目のところでございますが、国県からの補助金でございます。こちらの実績を基に清算されたもので、ある程度概算で頂いているもの、それが確定したということで返すものでございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） 9番、平田です。

あらかた皆さん聞いていたのでいいんですけれども、1点だけ教えてください。

18ページ、林道蛇喰中束線復旧工事増工ということですが、災害復旧ですよ。公共の災害に引っかけなかったんだらうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） こちらの方は補助債ではなくて、単独の事業になっております。なので、補助債ではございません。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。9番、平田さん。

○9番（平田 広君） その災害も単独でやるんじゃないかと、公共災害に引っかけなかったのですか。対象にならなかったのですか。出れば200万円、皆村の村費ですけれども。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） これは、令和5年に被災して、令和6年に発注して繰越しをしてきている事業で、その当時に、もう補助には該当にならないということで結論づけられた工事でございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 10番、鈴木です。

20ページ、保健体育施設費、ふれあい自然の家体育館清掃委託料、これ今までなかったような委託料なんです、今回新しくこれをつけたというのは、何か理由はあるのですか。

○議長（小澤 仁君） 教育課長。

○教育課長（熊谷吉則君） 今までこの清掃とかは、ワックス作業委託は入ってありませんでしたけれども、アリーナとか小中学校の体育館が、平日の夜なかなか混み合っていて使えないという話もお聞きしまして、安角の体育館でも利用できないかという話がありまして、旧小学校の中でも体育館として一番床板が新しい所を受皿として新たに清掃し、運動できるようにするというものがございます。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） たしか、大したもん蛇の置場所として使われていたと思うんですけども、それが理由ではなくて、それはもうなくなったということじゃなくて、これ使いたいということの理由だったのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。教育課長。

○教育課長（熊谷吉則君） そこで使いたいというお申出があったということであります。

○議長（小澤 仁君） 暫時休憩します。

午後 3 時 1 6 分 休 憩

午後 3 時 1 6 分 再 開

○議長（小澤 仁君） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） もう一度お願いします。

ふれあい自然の家体育館というのは、どこにあるのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。教育課長。

○教育課長（熊谷吉則君） 安角の入り口というか、大石川の脇にある旧安角小学校で、今は安角ふれあい自然の家であります。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） そこへは、大したもん蛇を置いていたわけじゃなかったんでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。教育課長。

○教育課長（熊谷吉則君） 大したもん蛇は、今はむつみ荘になりましたけれども、その前は安角小学校のまた山の上にある体力づくりセンターですか、そこの方に置かれておりました。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2 番、加藤つや子さん。

○2番（加藤つや子君） 2番、加藤です。

13ページの、先ほどの使用料及び賃貸料なんですけれども、地域振興費で施設使用料20万1,000円ありますが、これは先ほどから説明している、フィリピンの方たちが来たときに使うところだと思うんですけれども、どちらの施設のお金になりますでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） 主に村内の旅館を想定しております。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。2番、加藤つや子さん。

○2番（加藤つや子君） 旅館であれば、寝具の借上料って要るのですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。地域政策課長。

○地域政策課長（米野哲弘君） この寝具借上料というのはまた別で、これ同じ使用料等で上がっていますけれども、ここは体験コンテンツの一つで、鷹の巣キャンプ場のバンガローを活用した今体験コンテンツの方を想定しておりまして、こちらで使う寝具になります。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。

そのほか質疑ありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっております議案第70号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第70号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第70号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第70号は原案のとおり可決されました。

休憩します。15時30分まで。

午後3時19分 休 憩

午後３時３０分 再 開

○議長（小澤 仁君） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

日程第２０、議案第７１号 令和７年度関川村国民健康保険関川診療所特別会計補正予算（第２号）

○議長（小澤 仁君） 日程第20、議案第71号令和７年度関川村国民健康保険関川診療所特別会計補正予算（第２号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第71号は、令和７年度関川村国民健康保険関川診療所特別会計補正予算（第２号）です。

具体的な内容について、健康福祉課参事に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 健康福祉課参事。

○健康福祉課参事（須貝博子君） 議案第71号関川村国民健康保険関川診療所特別会計補正予算案（第２号）についてご説明させていただきます。

301ページを御覧ください。

既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ30万円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ1億360万円とするものです。

歳出からご説明いたします。

305ページを御覧ください。

1款1項1目一般管理費の12節電子カルテ改修委託料は、現在電子カルテで使用しているパソコンのOS、オペレーティングシステムがマイクロソフト社のウインドウズ10ですが、これのサポートが10月14日で終了するために、ウインドウズ11に改修するものです。

続きまして、17節備品購入費では鋭匙を購入いたします。鋭匙とは、手術器具の一種でありまして、先端がスプーン状になっていまして、壊死細胞や異物、軟骨部の除去に用いるものです。

続きまして、歳入をご説明いたします。

304ページを御覧ください。

今回の補正の財源としまして、前年度繰越金を30万円計上するものです。

説明は以上でございます。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。10番、鈴木さん。

○10番（鈴木紀夫君） 10番、鈴木です。

305ページ、備品購入費のところの鋭匙の購入、この鋭匙、軟骨、壊死した部分をかき出すような道具ということですが、手術をそこでされるということですか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。健康福祉課参事。

○健康福祉課参事（須貝博子君） 外来でいらっしゃいました患者で、壊死している患部がある方に対して、手術という点数ではとれませんけれども、手術器具であります。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。

そのほか質疑ありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっています議案第71号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第71号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第71号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第71号は原案のとおり可決されました。

日程第21、議案第72号 令和7年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第2号）

○議長（小澤 仁君） 日程第21、議案第72号令和7年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第72号は、令和7年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第2号）です。

具体的な内容は健康福祉課長に説明させます。

○議長（小澤 仁君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（田村清洋君） それでは、議案第72号令和7年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第2号）の説明をさせていただきます。

これは、既定の歳出歳入歳出予算に歳入歳出それぞれ2,050万円を追加しまして、総額、歳入歳

出それぞれ9億4,260万円とするものでございます。

具体的な中身につきましては、405ページを御覧ください。

まず、償還金についてでございますが、国県の補助金を返すものでございます。

続きまして、繰出金ということで、村の方へ戻すという部分で、900万円を計上しているものでございます。

1ページ戻っていただきまして、その財源につきましては、繰越金の部分を2,050万円計上いたしまして対応するというものでございます。

以上です。

○議長（小澤 仁君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。3番、川崎さん。

○3番（川崎哲也君） 3番、川崎です。

405ページをお願いします。

2目の償還金、先ほども償還金について説明いただいたんですけれども、補助金の返還ということでこの1,150万円、1,000万円は、例年こういった、これぐらいの金額になるのでしょうか。

○議長（小澤 仁君） 答弁を求めます。健康福祉課長。

○健康福祉課長（田村清洋君） これも実績という部分を踏まえての結果でございますので、前後することがございます。

また、この国からの補助金につきましては、どちらかという国の方からある程度の金額が提示される形でございまして、我々の実績を踏まえた形で国が提示してくると、それに沿っての補助金申請、それで実績を踏まえての返還という形になります。

以上です。

○議長（小澤 仁君） 答弁を終わります。

そのほか質疑ありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっています議案第72号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第72号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより議案第72号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第72号は原案のとおり可決されました。

日程第22、発案第7号 関川村議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

○議長（小澤 仁君） 日程第22、発案第7号関川村議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案書の趣旨説明を求めます。提出者、議会運営委員長近 壽太郎さん。

○議会運営委員長（近 壽太郎君）

発案第7号

関川村議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

これは、議員辞職をしないで議会を長期欠席する場合の報酬納付支給、減額規定を追加し、改正するものでございます。

地方自治法第109条第6項及び関川村議会会議規則第14条第2項の規定により、上記議案を提出する。

令和7年9月11日

提出者 関川村議会運営委員会
委員長 近 壽太郎

関川村議会議長 小澤 仁 様

以上です。

○議長（小澤 仁君） これより提出者に対する質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 質疑なしと認めます。

委員長、ご苦労さまでした。

これより討論を行います。討論ありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（小澤 仁君） 討論なしと認めます。

これより発議案第7号を採決します。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

(賛成者起立)

○議長(小澤 仁君) 起立多数です。

したがって、発議案第7号は原案のとおり可決されました。

日程第23、請願第1号 「村内における、不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見書」の採択を求める請願

○議長(小澤 仁君) 日程第23、請願第1号「村内における、不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見書」の採択を求める請願を議題とします。

お諮りします。請願第1号については、会議規則第92条第2項の規定によって委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) ご異議なしと認めます。

したがって、請願第1号については、委員会付託を省略します。

本件について、紹介議員の趣旨説明を求めます。5番近 壽太郎さん。

○5番(近 壽太郎君)

請願第1号

「村内における、不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見書」の採択を求める請願
趣旨説明。

ごみ屋敷問題は、全国的に大きな問題になっています。当関川村においても、以前から深刻な課題として問題視されてきました。景観の悪化や衛生的負担、治安の悪化、さらには環境問題に悪影響を及ぼし、周辺住民の良好な生活や営みが侵害されています。この状況を放置しておく、問題がより深刻化するばかりでなく、解決に要する負担が時間とともに増えることになります。

この請願の願意に理解を頂き、採択を求めます。

記

1、行政、村民からなる委員会を設置すること。

2、警告の意味を持った行政代執行を加えた条例の作成に向けて早急に取り組むこと。

令和7年9月11日

紹介議員 近 壽太郎

関川村議会議長 小澤 仁 様

○議長(小澤 仁君) 紹介議員に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) 質疑なしと認めます。

近 壽太郎さん、ご苦労さまでした。

請願第1号について討論を行います。討論はありませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) 討論なしと認めます。

これより請願第1号を採決します。

この採決は起立によって行います。

請願第1号を採択することに賛成の方は起立願います。

(賛成者起立)

○議長(小澤 仁君) 起立多数です。

したがって、請願第1号は採択することに決定しました。

しばらく休憩します。

午後3時43分 休 憩

午後3時44分 再 開

○議長(小澤 仁君) 休憩前に引き続き会議を再開します。

追加日程第1、発議案第1号 「村内における、不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見書」の提出について

○議長(小澤 仁君) 追加日程第1、発議案第1号 「村内における、不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見書」の提出についてを議題とします。

提案者の趣旨説明を求めます。5番、近 壽太郎さん。

○5番(近 壽太郎君)

発議案第1号

「村内における、不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見書」の提出について
関川村議会会議規則第14条第1項の規定により提出する。

令和7年9月11日

提出者 関川村議会議員 近 壽太郎

賛成者 関川村議会議員 高 橋 正 之

関川村議会議員 鈴 木 紀 夫

関川村議会議長 小 澤 仁 様

「村内における、不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見書」

前文は省略して、趣旨説明を申し上げます。

ごみ屋敷問題は、全国的に大きな問題になっています。関川村においても、以前から深刻な課題として問題視されてきました。景観の悪化や衛生的負担、治安の悪化、さらには環境問題に悪影響を及ぼし、周辺住民の良好な生活や営みが侵害されています。この状況を放置しておく、問題がより深刻化するばかりでなく、解決に要する負担が時間とともに増えることになります。

この請願の願意に理解を頂き、採択を求めます。

記

1、行政、村民からなる委員会を設置すること。

2、警告の意味を持った行政代執行を加えた条例の作成に向けて早急に取り組むこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和7年9月11日

関川村議会議長 小澤 仁

(意見書の提出先)

関川村長 加藤 弘 様

○議長(小澤 仁君) これより提案者に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) 質疑なしと認めます。

近 壽太郎さん、ご苦労さまでした。

次に、発議案第1号の討論を行います。討論はありませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(小澤 仁君) 討論なしと認めます。

これより発議案第1号を採決します。

この採決は起立によって行います。

本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

(賛成者起立)

○議長(小澤 仁君) 起立多数です。

したがって、発議案第1号は原案のとおり可決されましたので、村に提出することにします。

○議長(小澤 仁君) 以上で本日の日程は全て終了しました。

これで散会します。

お疲れさまでした。

午後 3 時 4 8 分 散 会